下北地域広域活性化計画の概要

青森県

計画のポイント

・広域交通拠点である東北新幹線七戸駅（仮称、H22年度開業予定）と下北地域の観光拠点との連携を強化することにより、広域的な観光の活性化を図る。
・そのために必要な下北地域内の観光拠点間のアクセスを改善するための道路整備を推進する。

活イカ備蓄センター

津軽海峡文化館

むつ下北観光物産館

計画期間 平成19年度～平成22年度

1．計画の目標

広域交通拠点「東北新幹線七戸駅（仮称、H22年度開業予定）」と下北地域の観光拠点との連携強化により観光を活性化し下北地域の自立的な発展を目指す。

2．目標を定量化する主な指標

観光レクリエーション客入込数（万人）：
247（H18年度）→ 296（H23年度）

3．主な事業

道路

宮城県広域活性化計画の概要

宮城県

計画のポイント

・競争力ある高度電子機械産業及び自動車関連産業の集積を目的として、企業立地促進法基本計画（経済産業大臣同意）に集積区域を定めた。
・集積区域と仙台空港や仙台塩釜港（仙台港区）の連携と拠点施設相互の円滑な連携を確保するために、高規格道路を始めとする広域道路ネットワークの整備を推進する。また、集積区域での安全な生産活動を支えるために、治水施設の整備を推進する。

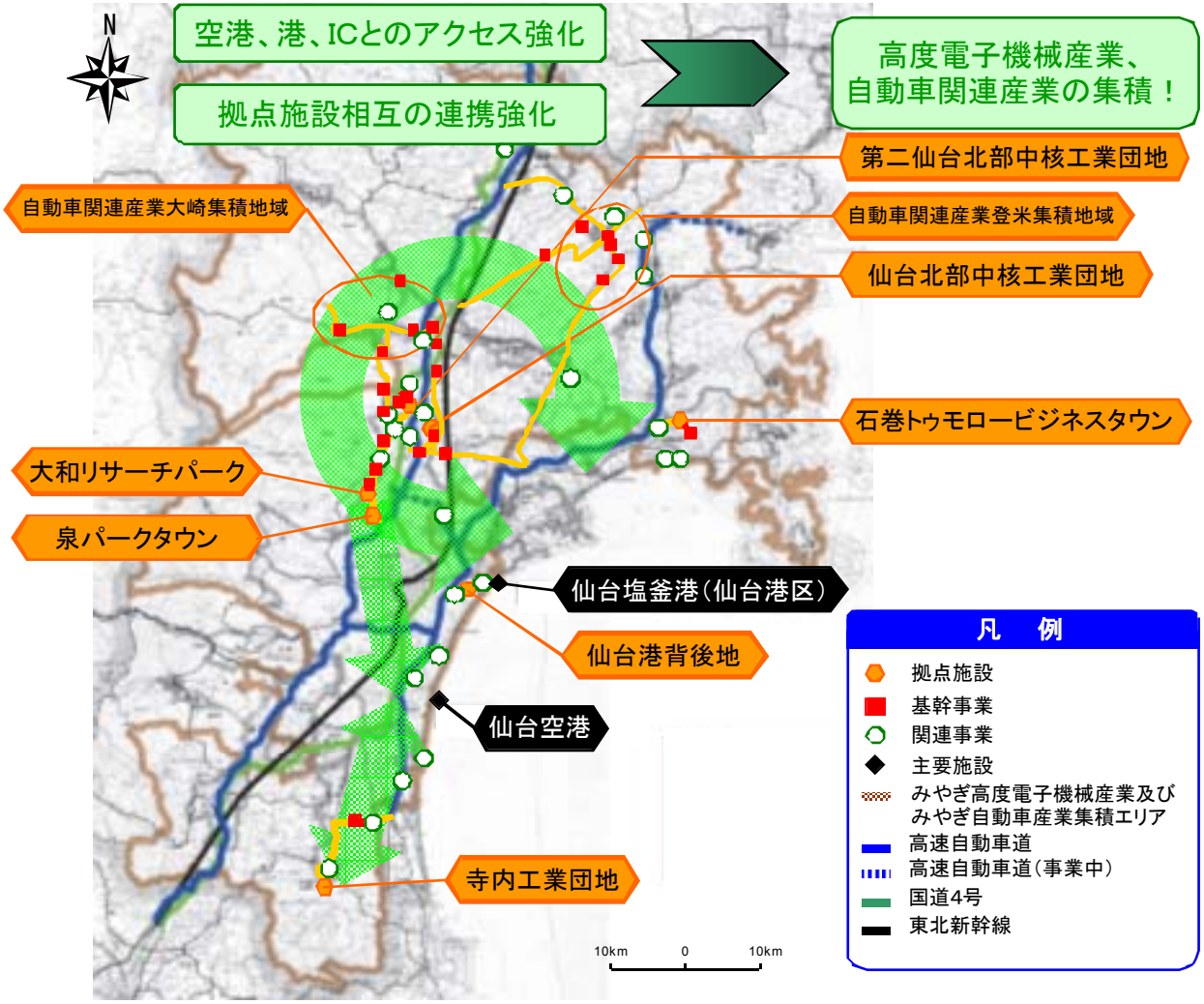
計画期間 平成１９年度～平成23年度

１．計画の目標
高度電子機械産業及び自動車関連産業の集積

２．目標を定量化する主な指標
製造品出荷額（高度電子機械産業）（億円）：
7，700（H17年度）→ 9，000（H23年度）
製造品出荷額（自動車関連産業）（億円）：
7，900（H17年度）→ 9，200（H23年度）

３．主な事業
河川、道路

４．その他
企業立地促進法基本計画の
経済産業大臣同意（H19.7）
①みやぎ高度電子機械産業集積形成基本計画
②みやぎ自動車関連産業集積形成基本計画

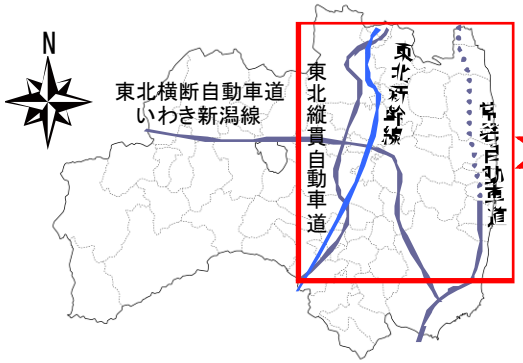


相双地域広域活性化計画の概要

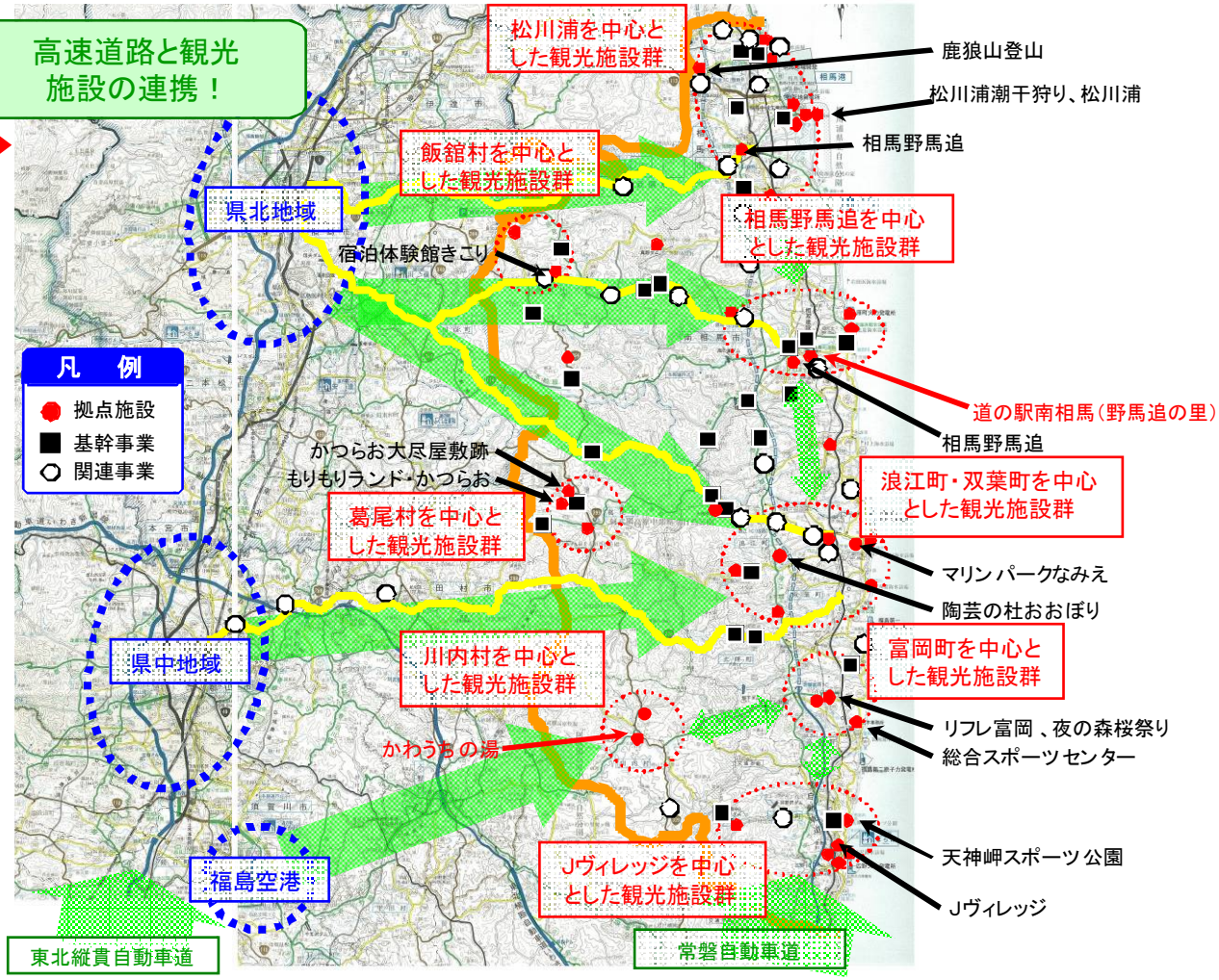
福島県

計画のポイント

・相双地域への常磐自動車道の北伸を契機として、高速道路を活かした広域的な観光の活性化を図る。
・そのため、南相馬市にオープンする「野馬追の里」など、相双地域に分散する各観光施設を結ぶ道路整備や案内標識の充実により、新たな観光ルートの設定や各観光施設間の連携強化を図る。
・あわせて、「うつくしま浜街道観光推進会議」、「ロマンチック街道」など街道を通じた地域の魅力づくりのための様々な団体の取り組みの連携を強める。



高速道路と観光施設の連携！



計画期間 平成１９年度～平成24年度

1．計画の目標

入込客数の調査地点33箇所のうち入込客数の伸びが増加した施設数を19施設から25施設とする。H18年度入込客数約440万人に対し、14%増の500万人とする。

2．目標を定量化する主な指標

観光客増加施設数（施設）：
19（H18年度）→ 25（H23年度）
観光入込客数（万人）：
440（H18年度）→ 500（H23年度）

3．主な事業

道路、案内板設置、誘客キャンペーン

東毛広域幹線道路沿線地域広域活性化計画の概要

群馬県

計画のポイント

・群馬県県央地域・東毛地域において、主に輸送機器、食料品、機械製品、金属製品等を製造する工場が集積する工業団地と首都圏との連絡を改善する。
・そのため、高速道路へのアクセス道路となる東毛広域幹線道路の整備を推進する。また、安全な生産活動を支えるために、治水施設の整備を推進する。

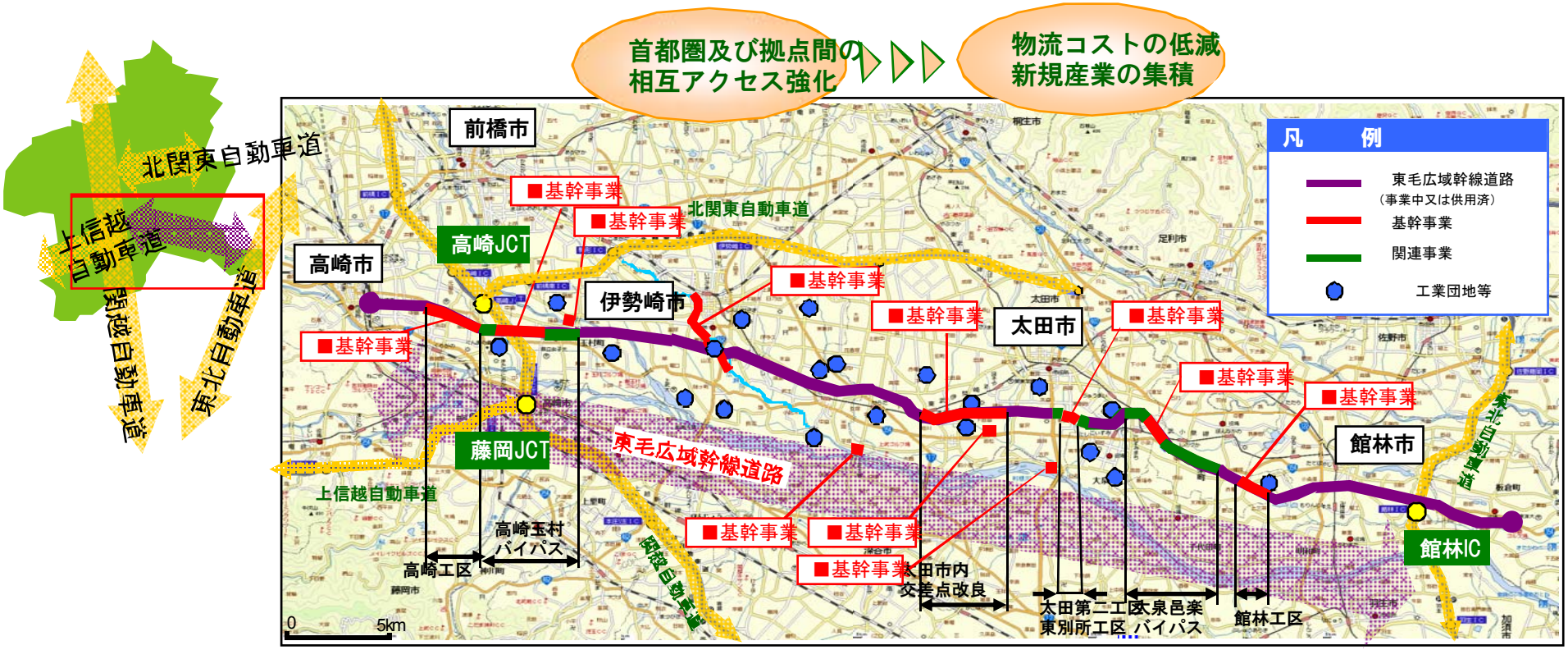
計画期間　平成19年度～平成23年度

1．計画の目標
群馬県県央・東毛地域における工場集積地へのアクセス強化による産業の活性化

2．目標を定量化する主な指標
工業製品出荷額（億円）：
57,978（H18年度）→ 59,717（H23年度）

3．主な事業
河川、道路

4．その他
企業立地促進法基本計画（アナログ関連産業、健康科学産業、基盤技術産業の3計画）の経済産業大臣同意（平成19年10月）

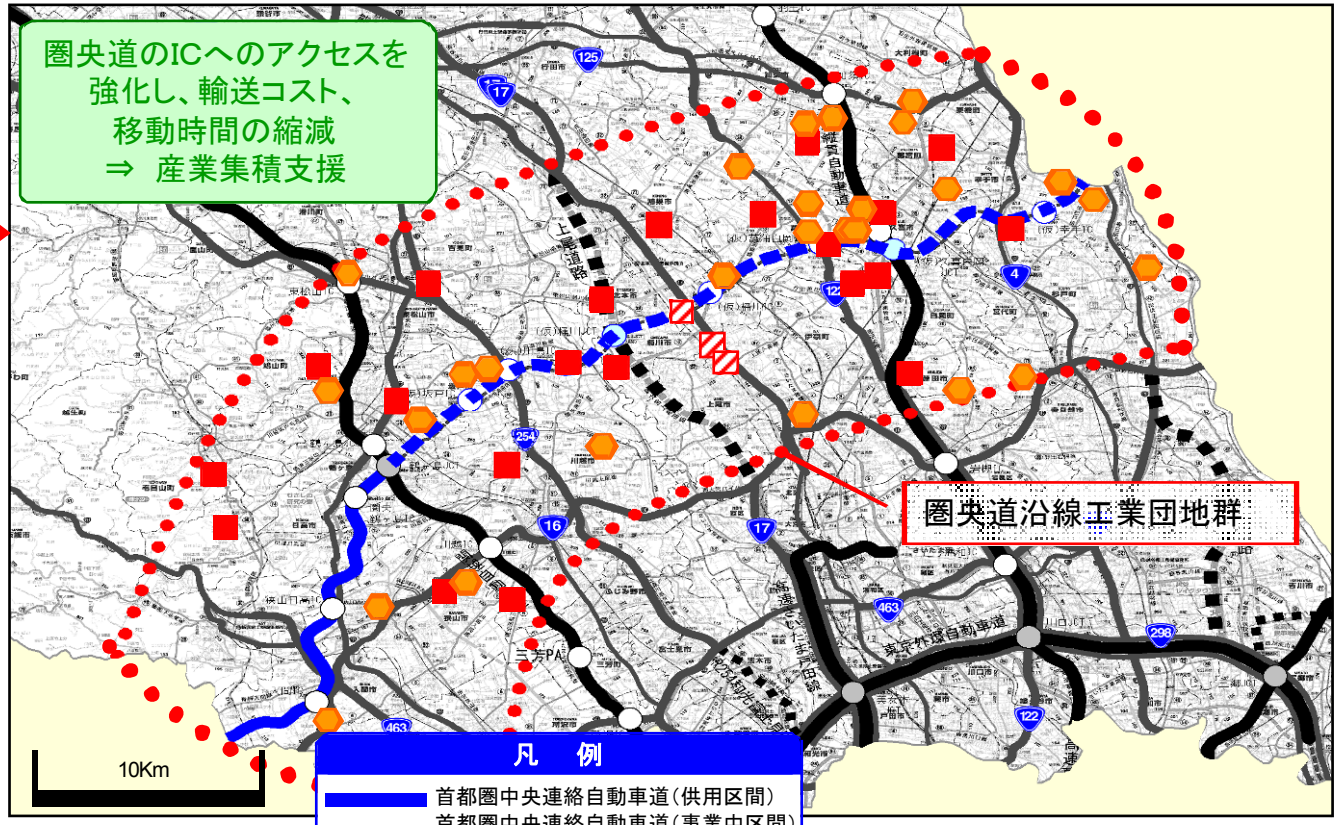


圏央道沿線地域広域活性化計画の概要

埼玉県

計画のポイント

・首都圏中央連絡自動車道(「圏央道」)の開通を十分に活かした産業集積の支援を促す。
・そのため、圏央道沿線で広域的活動を行っている製造業(食品、建材、自動車関連機械、建設機械など)が立地する工業団地から圏央道のICへのアクセス道路を整備し、輸送コストの縮減や移動時間の短縮を図る。



計画期間 平成19年度～平成23年度

1. 計画の目標

圏央道沿線の基盤整備により、輸送コストの縮減、移動時間の短縮が図られ、圏央道を十分に活かした産業の活性化を行う。

2. 目標を定量化する指標

新規企業立地件数(件):
0(H19年度)→ 40(H23年度)
産業基盤の整備面積(ha):
0(H19年度)→ 300(H23年度)

3. 主な事業

道路

4. その他

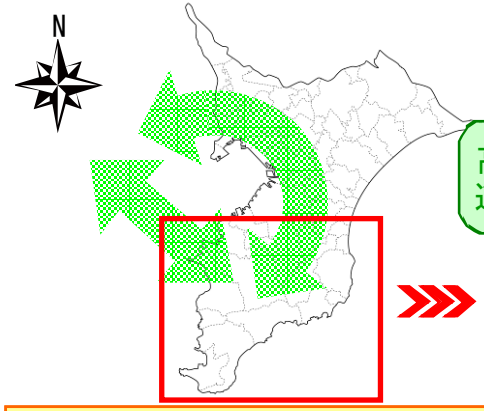
企業立地促進法基本計画の経済産業大臣同意(H19.12)

南房総地域広域活性化計画の概要

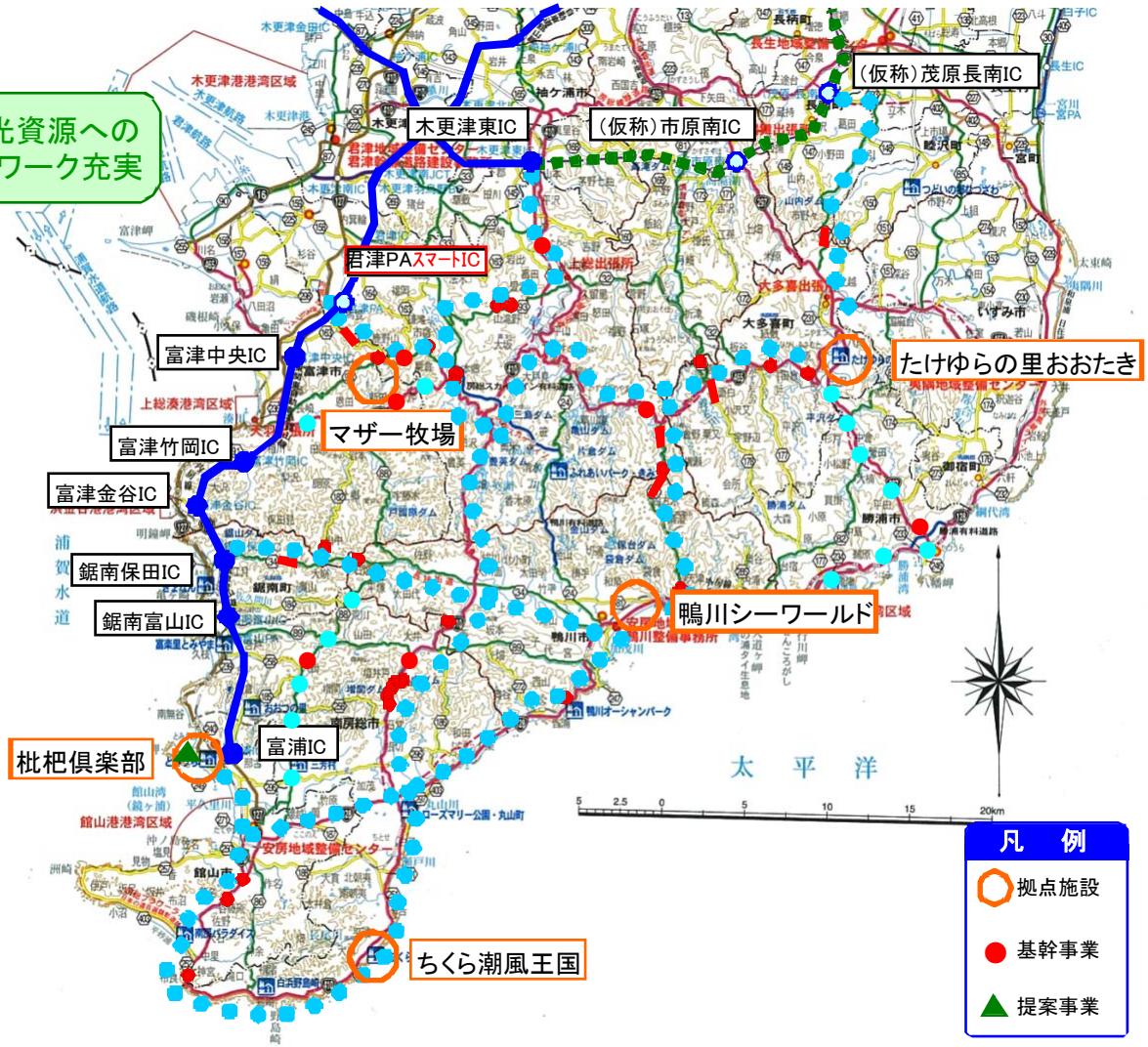
千葉県

計画のポイント

・高速道路の開通により首都圏からのアクセスが飛躍的に向上したことを活かし、高速道路から各観光資源に至る道路整備と各種観光施策を一体的に行うことにより観光ネットワークをさらに充実させ、首都圏住民の第二のふるさととなるよう、観光客(特に長時間滞在・宿泊旅行者)の増大を図る。



高速道路から観光資源への道路整備でネットワーク充実



計画期間 平成19年度～平成23年度

1. 計画の目標

デスティネーションキャンペーンにより構築された観光ネットワークをさらに充実させ、観光客(特に長時間滞在・宿泊旅行者)の増大を図る。

2. 目標を定量化する指標

観光入込客数(千人):
26,889(H18年)→28,200(H23年)
観光入込客数　宿泊客(千人):
3,261(H18年)→3,261(H23年)
教育旅行入込学校数(校)
55(H18年)→65(H23年)

3. 主な事業

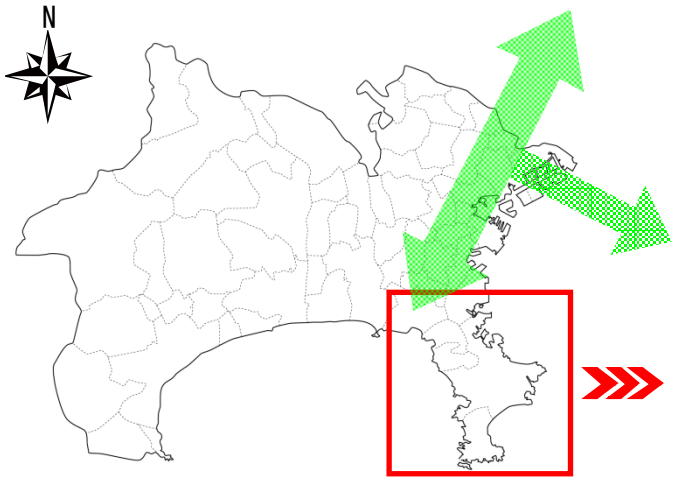
道路

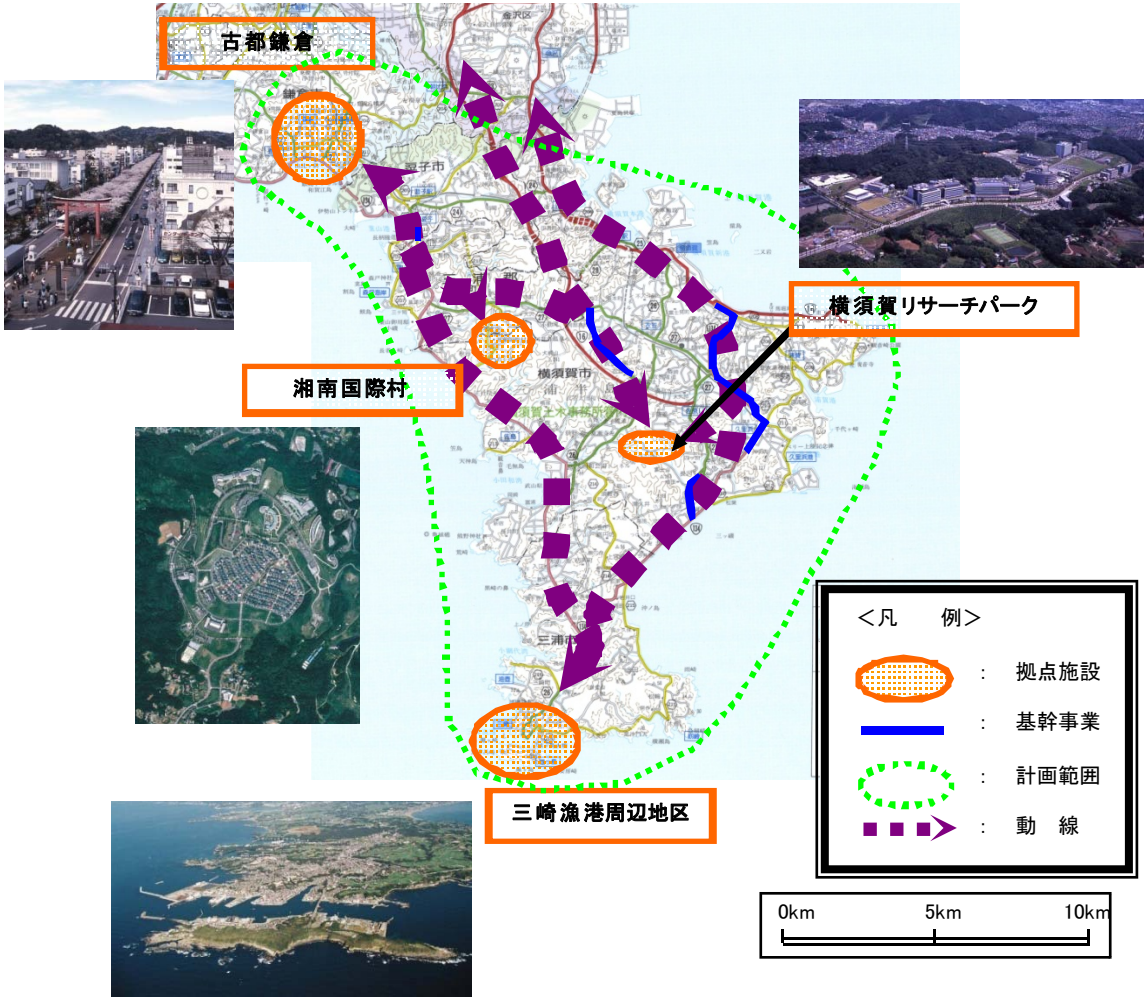
三浦半島地域広域活性化計画の概要

神奈川県

計画のポイント

・三浦半島地域の歴史的遺産古都鎌倉の広域観光活性化と交流・研究拠点における研究開発活動や会議・研修会の開催等を促進する。
・そのため、半島という地理的な特性から生じる交通アクセス上の課題を解消するための道路整備等を行う。





計画期間 平成１９年度～平成23年度

1．計画の目標

歴史的文化遺産の集積する古都鎌倉や国際的規模の会議や研究等の行われている交流・研究拠点等と、首都圏など広域との一層の交流を促進することにより、当該地域の活性化を図る。

2．目標を定量化する指標

観光入込客数（万人）：
3，207（H18年度）→3，300（H22年度）

3．主な事業

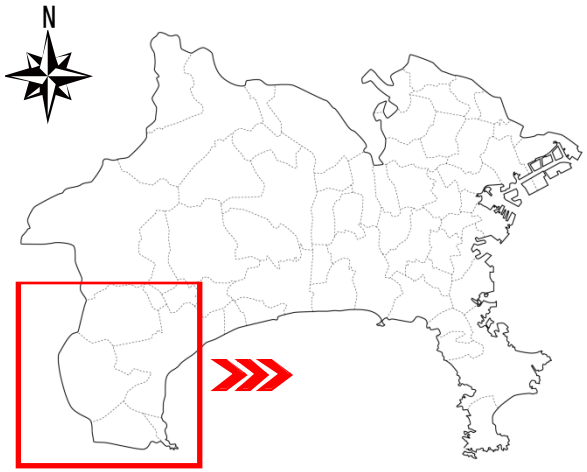
道路

箱根及び周辺地域広域活性化計画の概要

神奈川県

計画のポイント

・国際観光地として内外から高い集客力を誇る箱根及び周辺地域への交通渋滞が激しい状況にあるため、アクセス道路の整備等を行うことにより利便性・回遊性を向上し広域観光の活性化を図る。



計画期間 平成19年度～平成23年度

1．計画の目標

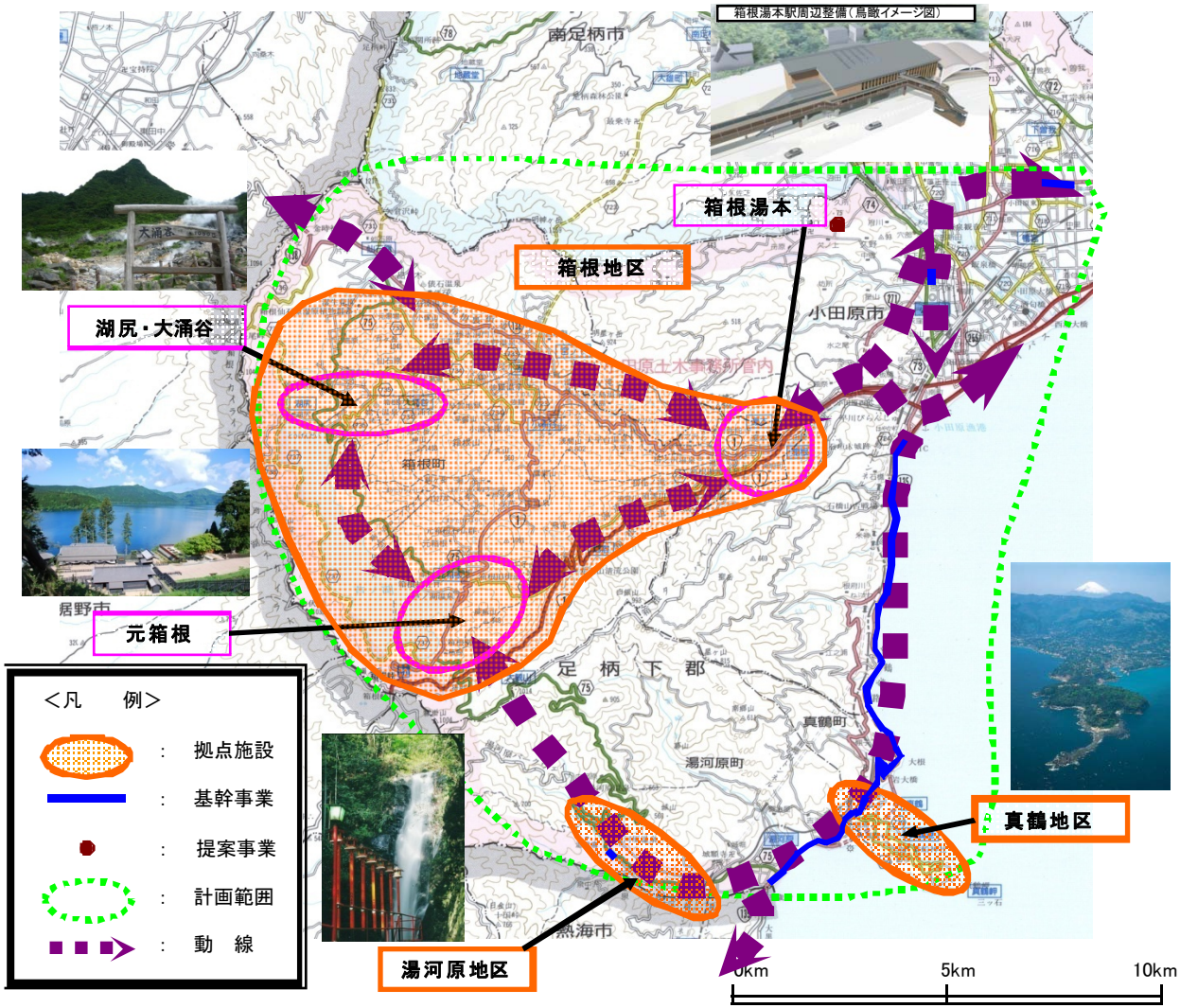
国際観光地として内外から高い集客力を誇る箱根及び周辺地域において観光・交流を支える基盤づくりによる観光活性化を図る。

2．目標を定量化する指標

観光入込客数（万人）：
2,527（H18年度）→2,570（H22年度）

3．主な事業

道路、公園

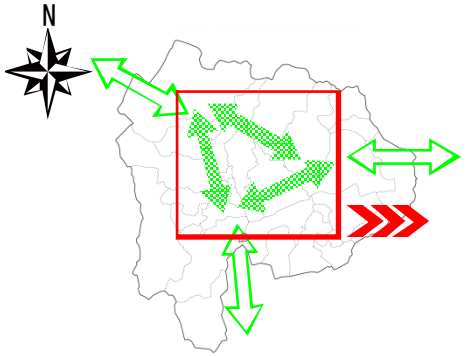


山梨県国中地域広域活性化計画の概要

山梨県

計画のポイント

・国中地域の、国内有数の生産量・出荷額を誇るワインやもも・ぶどうといった農産物の生産地（ワイン工場や果樹園群）を拠点として、「やまなしブランド」としての全国展開に伴う地場産業活性化と広域観光の活性化を図る。
・そのため、拠点施設へのアクセスや回遊機能を強化するための道路整備等を行う。



計画期間 平成１９年度～平成23年度

1．計画の目標

山梨県国中地域における拠点施設へのアクセス強化により、地場産業の活性化を図る。

2．目標を定量化する主な指標

アクセス時間の短縮率（%）：
　－（H19年度）→　5.0（H23年度）
体験農園施設来場者数の増加（万人/5年）：
　－（H19年度）→ 19（H23年度）

3．主な事業

河川、道路

4．その他

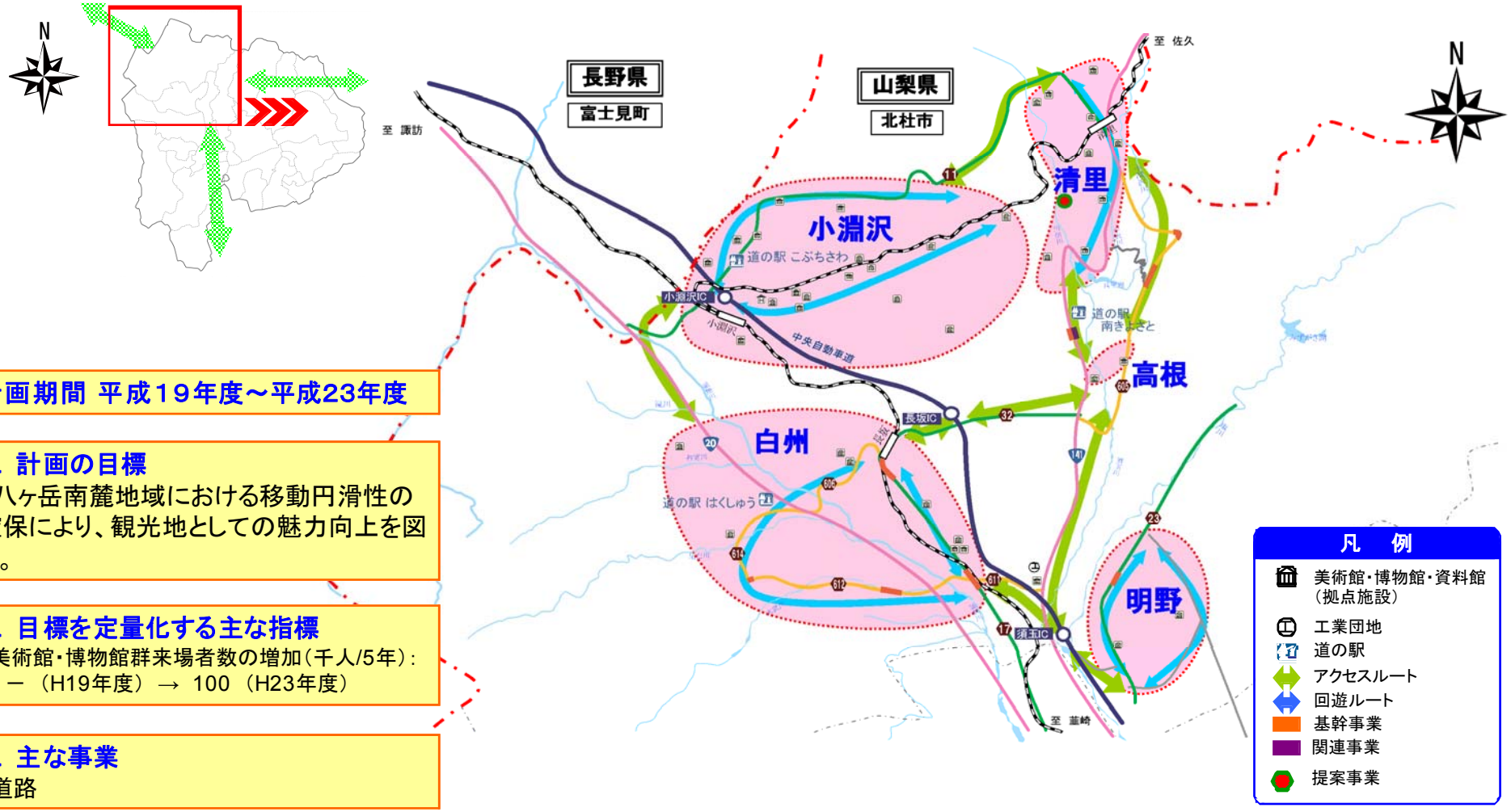
農山漁村活性化計画（笛吹市）との連携

八ヶ岳南麓地域広域活性化計画の概要

山梨県

計画のポイント

・八ヶ岳南麓地域の美術館・博物館が集中する地域において、これらの施設間の連携を進めることにより魅力を高め、広域観光の活性化を図る。
・そのため、美術館・博物館へのアクセスや回遊機能を強化するための道路整備を行う。



計画期間 平成１９年度～平成23年度

1．計画の目標

八ヶ岳南麓地域における移動円滑性の確保により、観光地としての魅力向上を図る。

2．目標を定量化する主な指標

美術館・博物館群来場者数の増加（千人/5年）：
－（H19年度）→ 100（H23年度）

3．主な事業

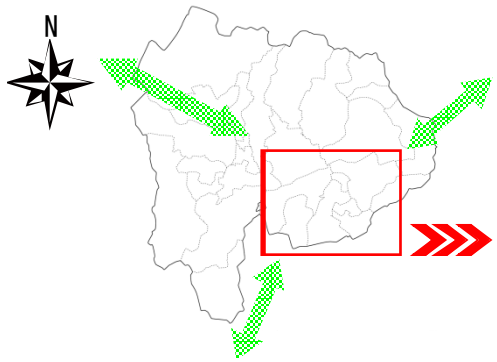
道路

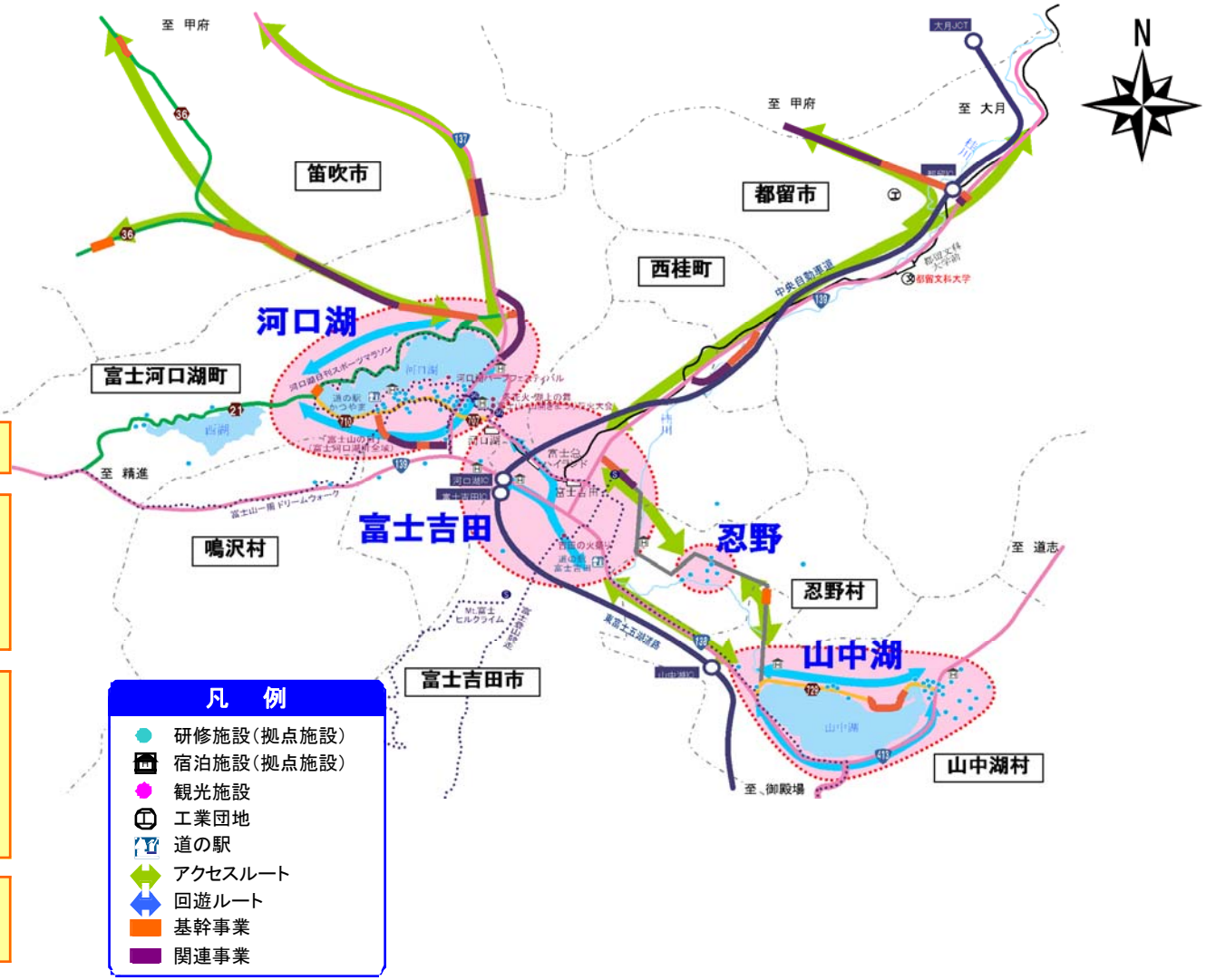
富士北麓地域広域活性化計画の概要

山梨県

計画のポイント

・富士北麓地域に立地するコンベンション施設（会議・研修施設）へのアクセスの強化と国際観光地として名高い周辺観光地への回遊性の向上を図るための道路整備を行い、コンベンションエリアとしての魅力向上と観光地としての更なるイメージアップを図る。





計画期間 平成１９年度～平成23年度

1．計画の目標

富士北麓地域の拠点施設へのアクセス向上により、活発な国際交流による地域活性化を促す。

2．目標を定量化する主な指標

アクセス時間の短縮率（％）：
－ （H19年度） → 2.0 （H23年度）
コンベンションセンター群における
国際会議実施回数（回/年）：
4 （H19年度） → 6 （H23年度）

3．主な事業

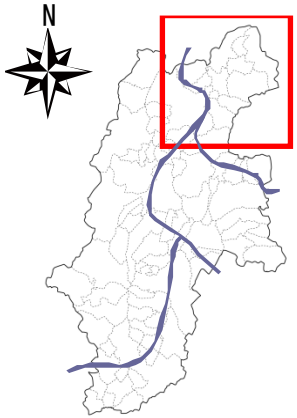
道路

北信濃・善光寺・松代地域広域活性化計画の概要

長野県

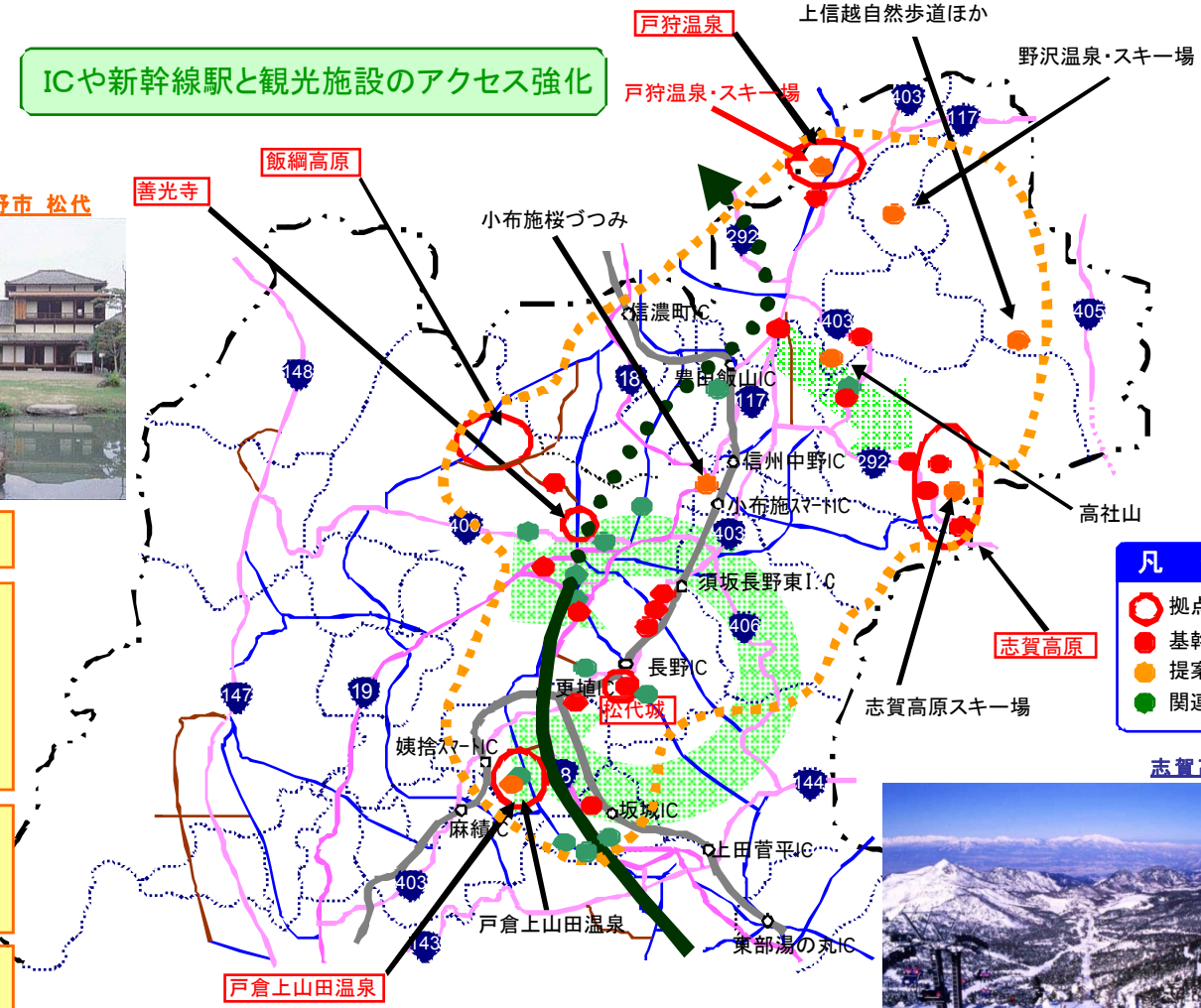
計画のポイント

・北信地域への北陸新幹線の延伸を見据え、スキー場の活性化、戸倉・上山田温泉施設の有効活用、歴史資産の松代の再整備などを連携させ、一体的な観光エリアとして広域観光の活性化を図る。
・そのため、インターチェンジやスマートIC、更には新幹線駅と各観光拠点とのアクセスを強化する道路整備等を行う。



長野市 松代

ICや新幹線駅と観光施設のアクセス強化



志賀高原

計画期間 平成19年度～平成23年度

1．計画の目標

北信地域のスキー場の活性化、戸倉・上山田温泉施設の有効活用、歴史資産の松代の再整備、更にアクセス道路整備を推進し、広域観光の活性化を目指す。

2．目標を定量化する主な指標

松代町観光客数（万人）：
30（H15年度）→35（H23年度）

3．主な事業

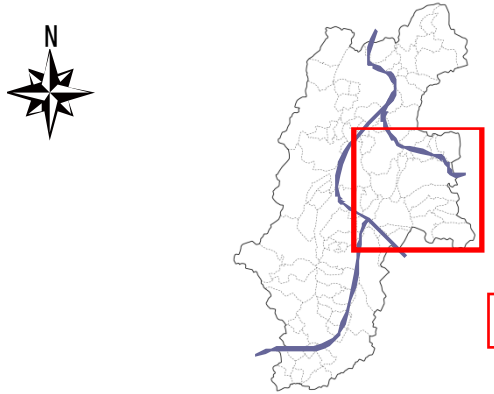
道路、歩道・標識整備、温泉地再生

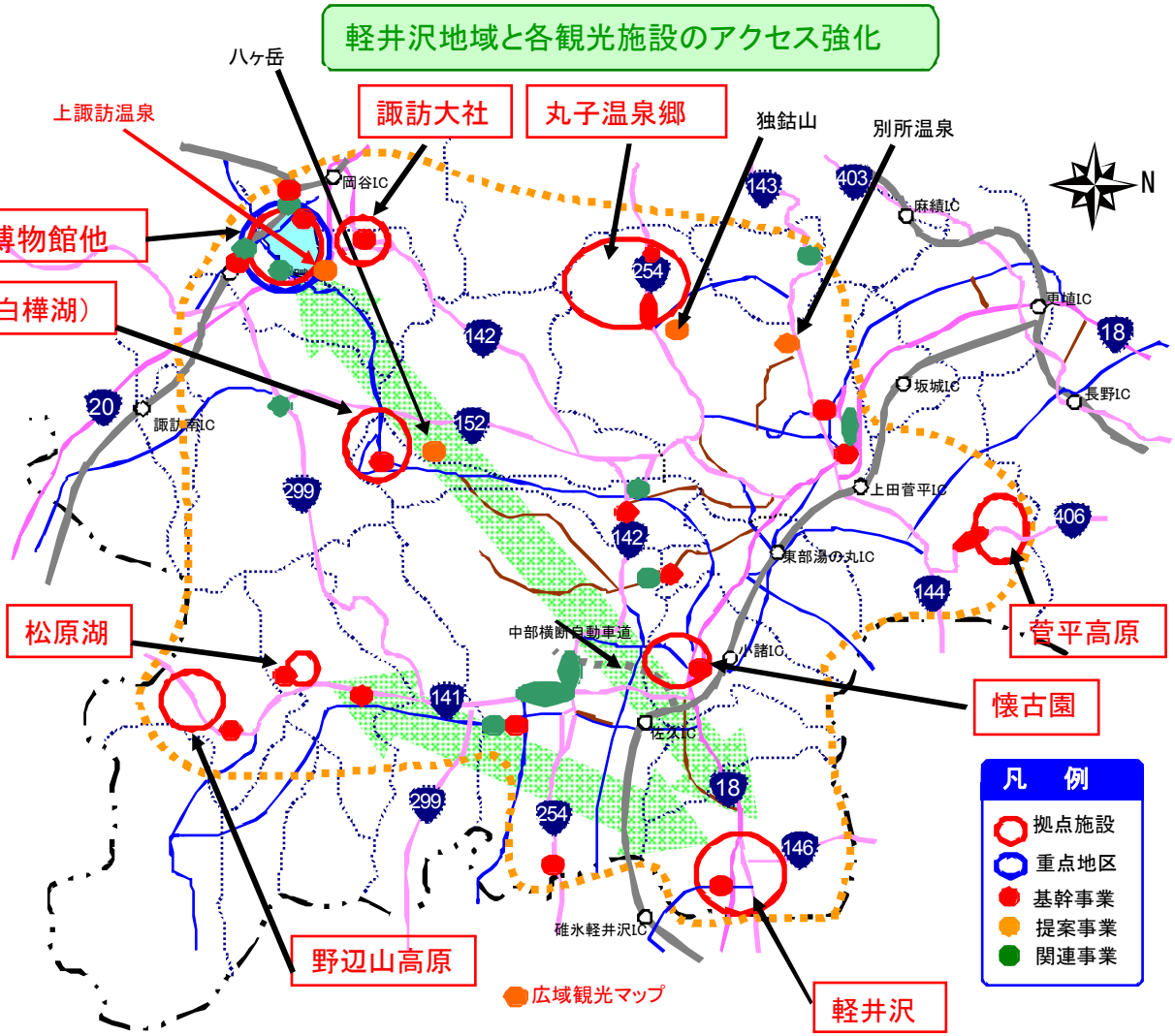
八ヶ岳山麓・軽井沢地域広域活性化計画の概要

長野県

計画のポイント

・八ヶ岳山麓地域への中部横断自動車道の整備とあわせて、国際的観光地である軽井沢地域との連携を強化することにより、広域観光の活性化を図る。
・そのため、八ヶ岳山麓・軽井沢地域における交通渋滞の解消、観光拠点へのアクセスの強化を図るための道路整備等を行う。





計画期間 平成１９年度～平成23年度

１．計画の目標

軽井沢地区及び八ヶ岳山麓地域における交通諸問題を解決し、広域観光の活性化を目指す。

２．目標を定量化する主な指標

都市農村交流人口（万人）：
　５１（H１８年度）→５３（H２３年度）
諏訪圏工業メッセ来訪者（人）：
　２３，１００（H１７年度）→２７，０００（H２３年度）
黒曜石ﾐｭｰｼﾞｱﾑ等来訪者（人）：
　２１，０００（H１７年度）→２６，０００（H２３年度）

３．主な事業

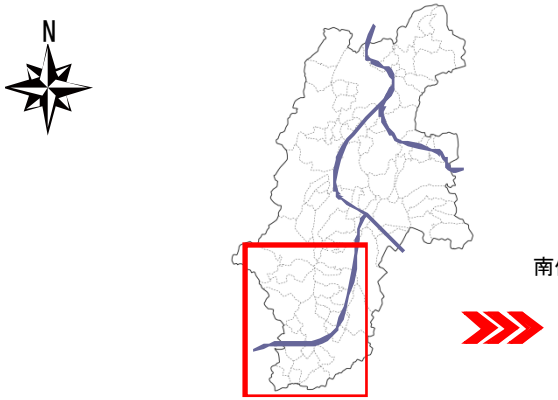
道路、標識整備

木曽・伊那・飯田地域広域活性化計画の概要

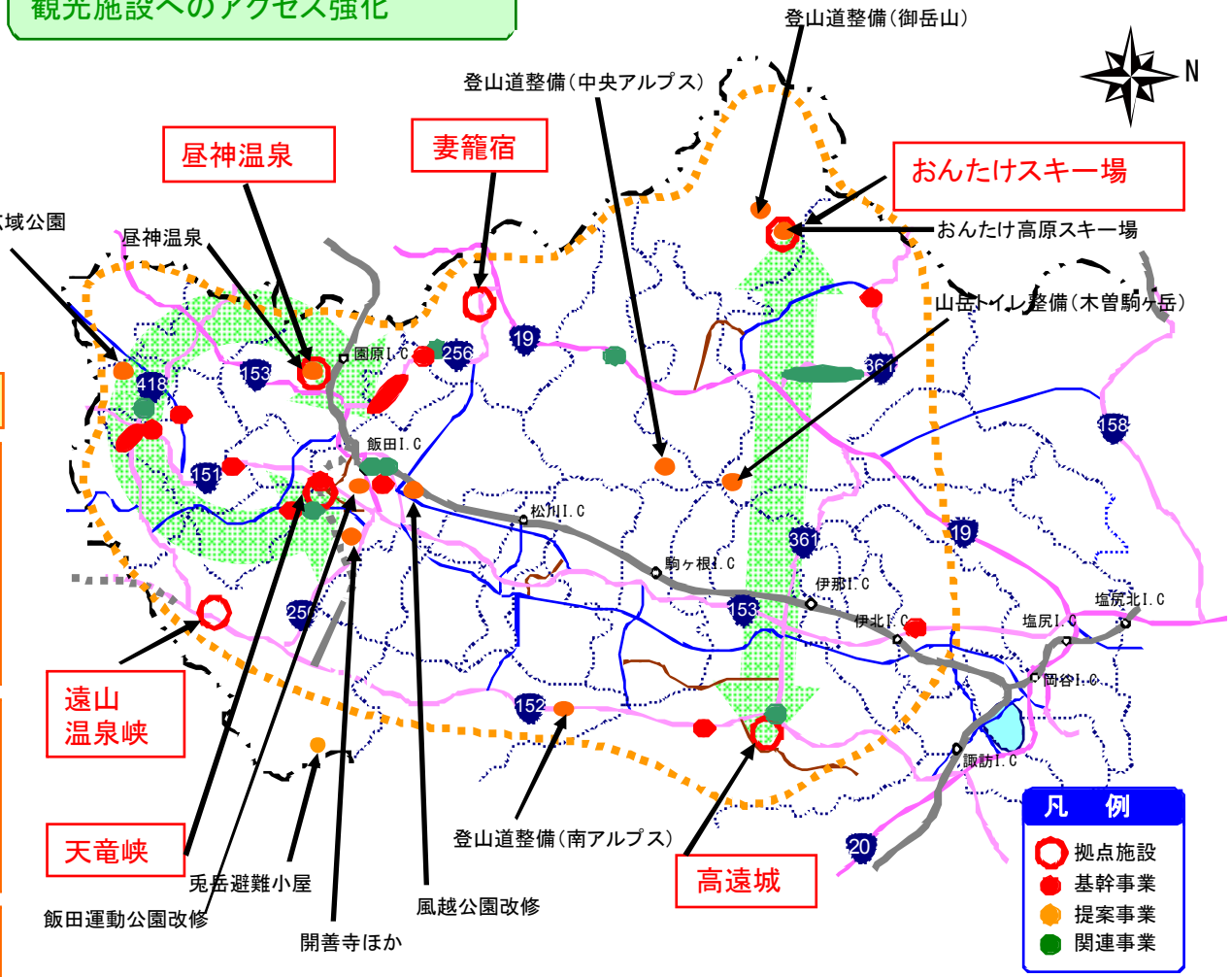
長野県

計画のポイント

・三遠南信自動車道の天竜峡IC（仮称）開通及び供用区間の延伸計画にあわせて、国道361号権兵衛峠道路の開通で季節を問わず30分で往来する事が可能になった木曽谷の観光拠点を含め、木曽・伊那・飯田地域における広域観光の活性化を図る。
・そのため、各観光拠点へのアクセスを強化をするための道路整備等を行う。



観光施設へのアクセス強化



計画期間 平成１９年度～平成23年度

1．計画の目標

三遠南信自動車道の天竜峡IC（仮称）開通及び供用区間の延伸計画にあわせて広域観光拠点観光施設へのアクセス強化をし、地域の活性化を図り、広域的観光の活性化を目指す。

2．目標を定量化する主な指標

昼神温泉宿泊数（万人）：
　80（H17年度）→85（H23年度）
高遠地区の来訪者数（万人）：
　35（H16年度）→39（H22年度）

3．主な事業

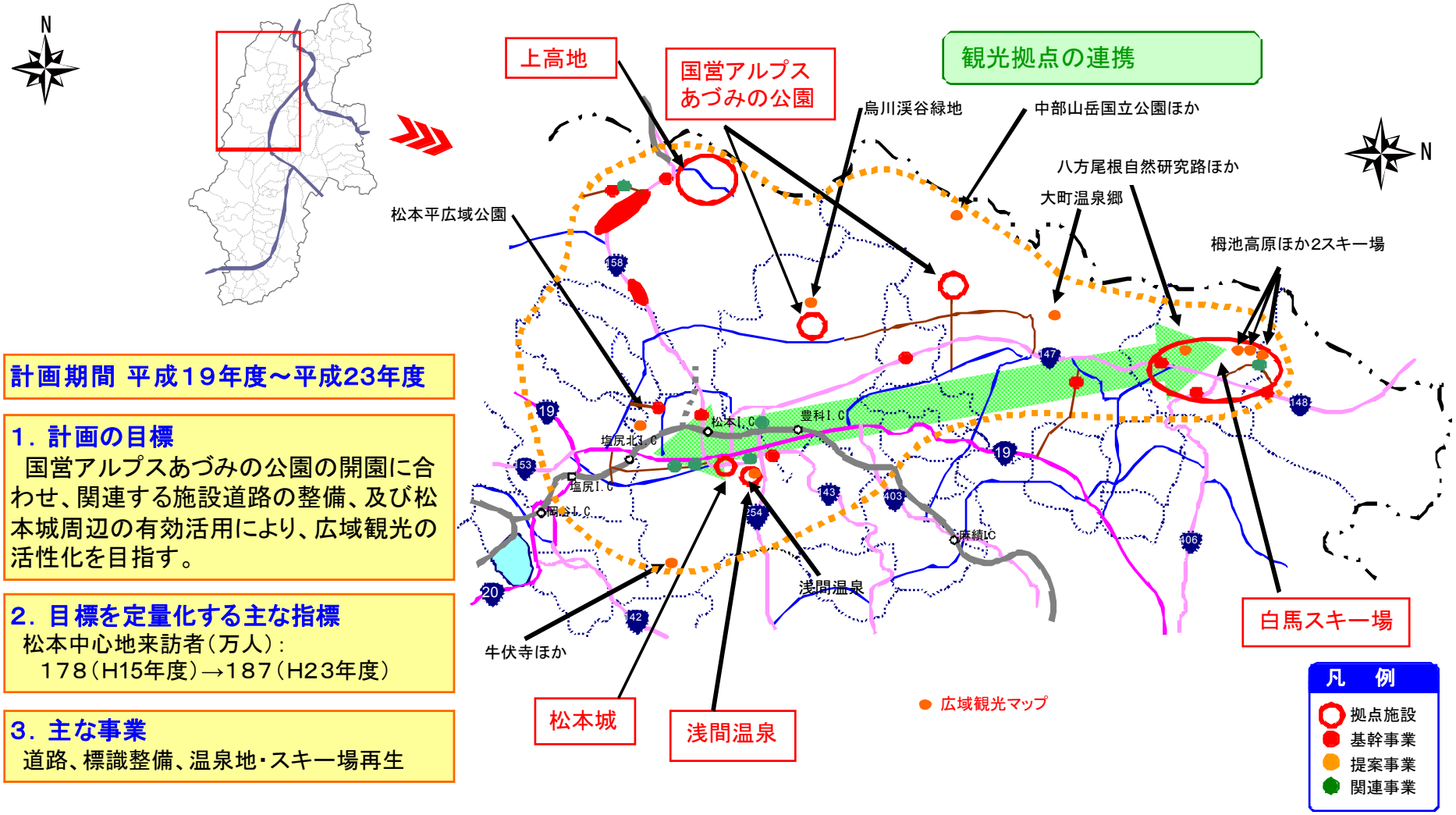
道路、登山道整備、温泉地・スキー場再生

北アルプス山麓・松本地域広域活性化計画の概要

長野県

計画のポイント

・国営アルプスあづみの公園大町松川地区の開園とあわせて、雄大な北アルプスの魅力を体験できる北アルプス山麓地域の観光拠点、松本城を中心とする松本地域の観光拠点を連携させることにより、広域的な観光の活性化を図る。
・そのため、各観光拠点間のアクセスを円滑にする道路整備、登山客の利便性の向上等を行う。



計画期間 平成１９年度～平成23年度

1．計画の目標

国営アルプスあづみの公園の開園に合わせ、関連する施設道路の整備、及び松本城周辺の有効活用により、広域観光の活性化を目指す。

2．目標を定量化する主な指標

松本中心地来訪者（万人）：
１７８（H15年度）→１８７（H23年度）

3．主な事業

道路、標識整備、温泉地・スキー場再生

新潟県広域活性化計画（交流人口拡大計画）の概要

新潟県

計画のポイント

・全国に誇れる食、自然、イベントを中心に、新しい観光資源の再発見・開発、地域の特徴を生かしたまちづくり、中国・台湾・韓国などからの観光客の誘致と外国人を含む観光客受入態勢の整備などを進めるとともに、他県との連携による「広域観光」に取り組み、観光業全体のボトムアップと交流人口の拡大を図る。
・そのため、必要な公園事業、道路事業等を行う。

計画期間 平成１９年度～平成23年度

１．計画の目標

観光・スポーツ振興による広域的な交流人口の拡大

２．目標を定量化する主な指標

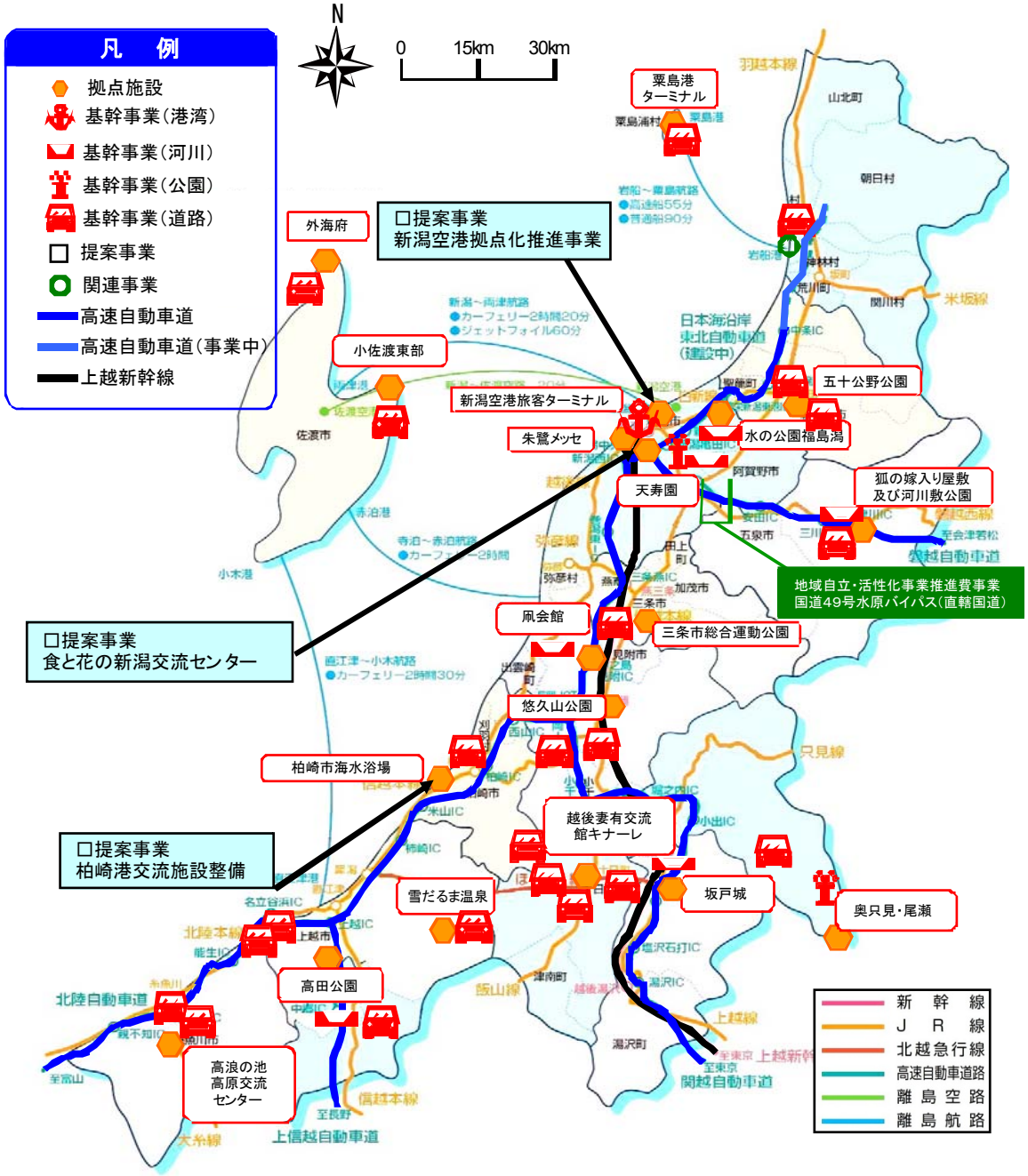
観光入込客数（万人）：
６，６７０（H16年度）→７，３５７（H20年度）
コンベンション開催数（回）
２２３（H17年度）→２７０（H20年度）

３．主な事業

公園、河川、道路、港湾、空港アクセス改善、食と花の新潟交流センター（仮称）整備

４．その他

農山漁村活性化計画（村上岩船地区）との連携
地域自立・活性化事業推進費　１件（直轄国道）

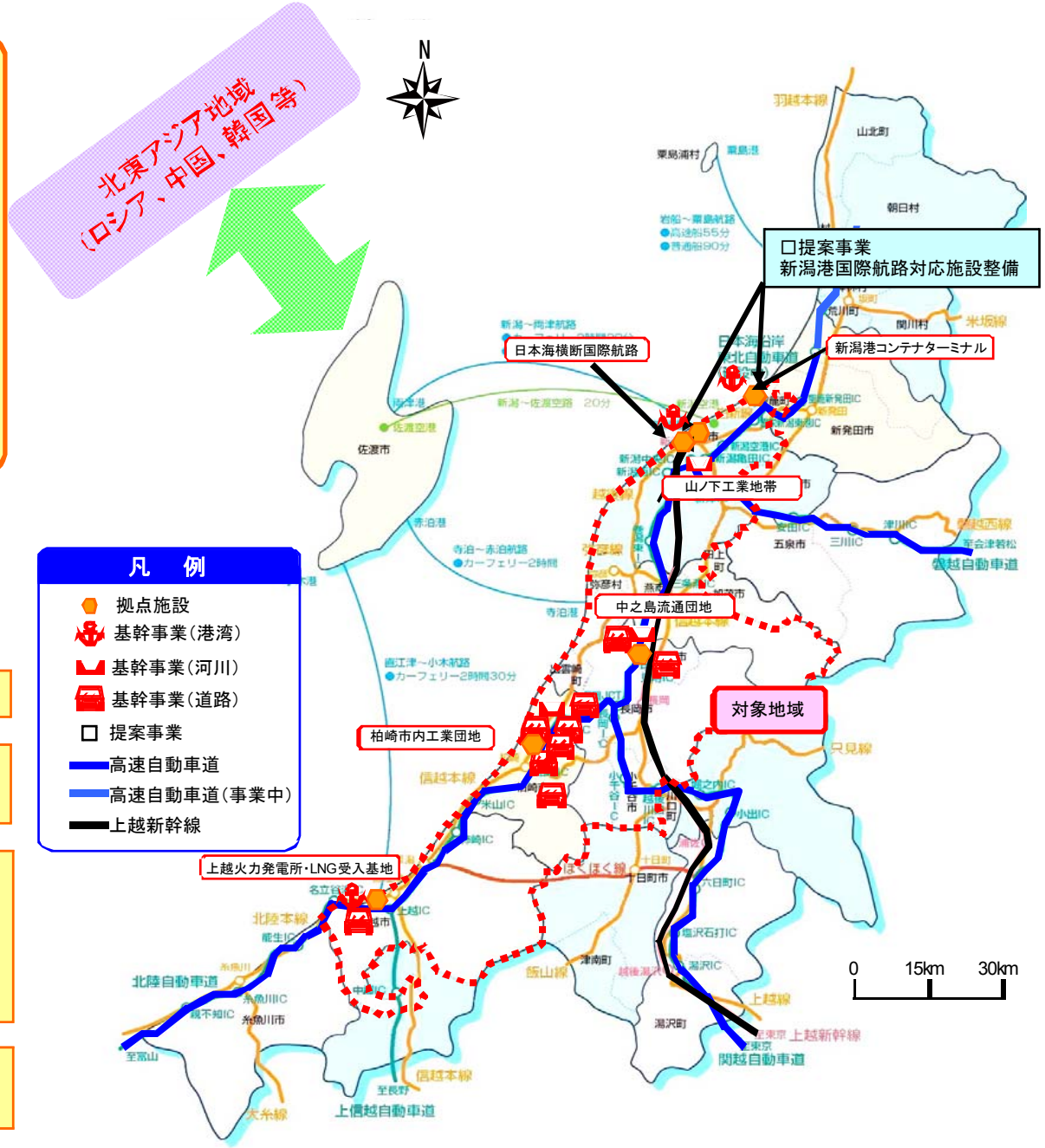


新潟、長岡、上越地域広域活性化計画（国際物流推進計画）の概要

新潟県

計画のポイント

・北東アジア地域への物流は今後急増が見込まれるものの、現在の物流拠点は太平洋側に立地しており、日本海側と北東アジアとの物流には時間とコストを要する状況にある。
・そのため、新潟・長岡・上越地域の物流拠点を北東アジア交流圏の表玄関口とするための機能強化への支援、背後圏と北東アジアとの結びつきの強化に資する交通インフラの整備強化、災害に強い産業基盤の整備等を行う。



計画期間 平成19年度～平成23年度

1．計画の目標

国際的な物流拠点としての産業活性化

2．目標を定量化する主な指標

県内輸出貨物の県内港湾利用率（%）：
40（H15年度）→ 55（H25年度）
県内総生産額（億円）：
19，318（H16年度）→ 26，118（H20年度）

3．主な事業

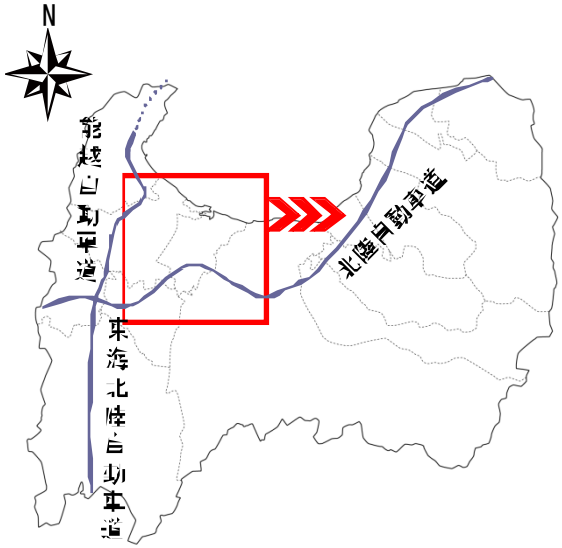
河川、道路、港湾

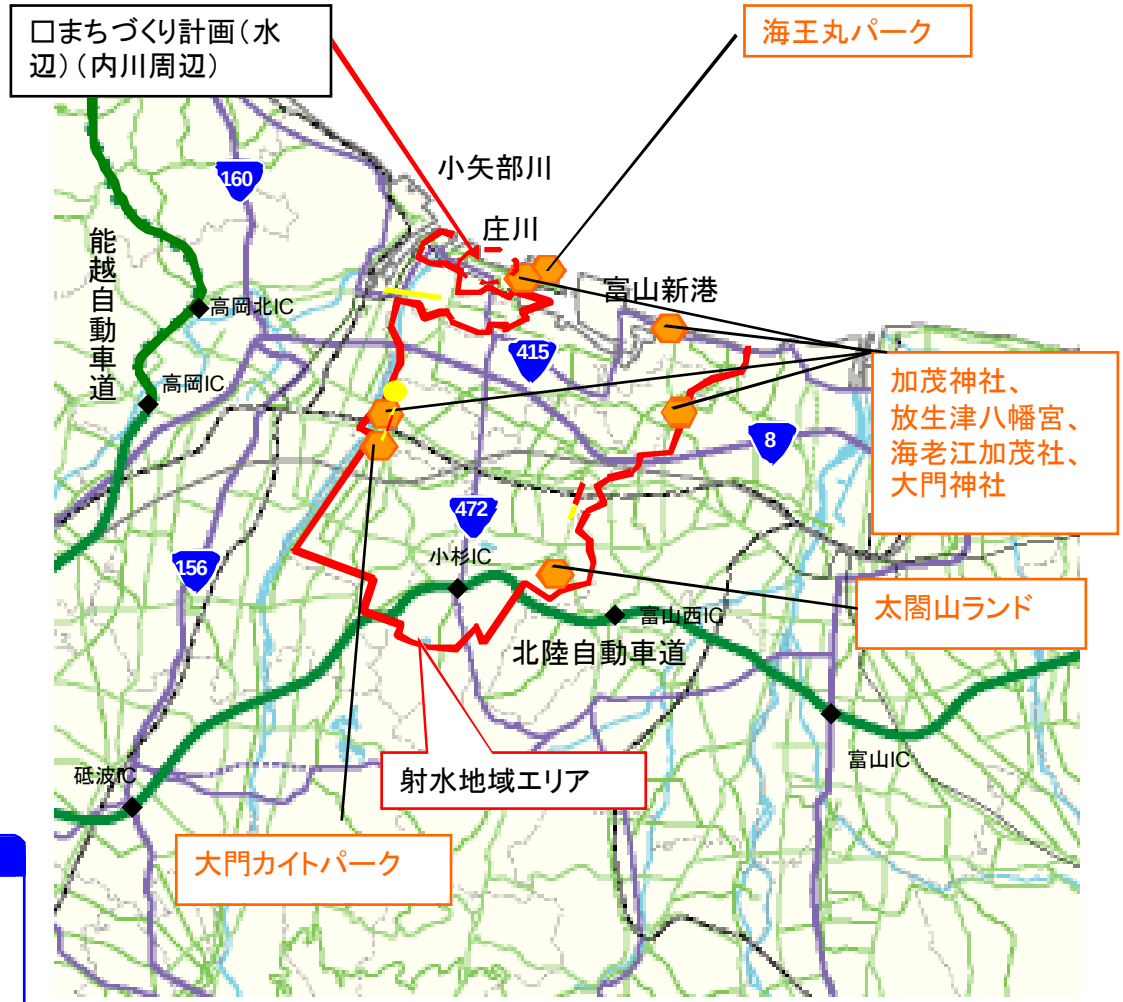
射水地域広域活性化計画の概要

富山県

計画のポイント

・東海北陸自動車道等の整備充実に伴い、飛騨・東海地方などとの広域交流の拡大が期待される射水地域において、海王丸パークなど地域内の美しい景観、豊かな歴史・文化を活かした観光資源を連携させて広域観光の活性化を図る。
・そのため、観光資源を相互に連絡する道路整備を行うとともに、美しい自然景観（水辺）を活かしたまちづくりを進める。





凡　例
- 拠点施設
- 基幹事業
- 関連事業
- 主要施設

計画期間　平成１９年度～平成23年度

１．計画の目標

射水地域の美しい景観、豊かな歴史・文化を活かした魅力ある観光資源に多くの観光客が訪ねてくること。

２．目標を定量化する主な指標

観光入込客数（万人）：
約68（H17年度）→約75（H23年度）

３．主な事業

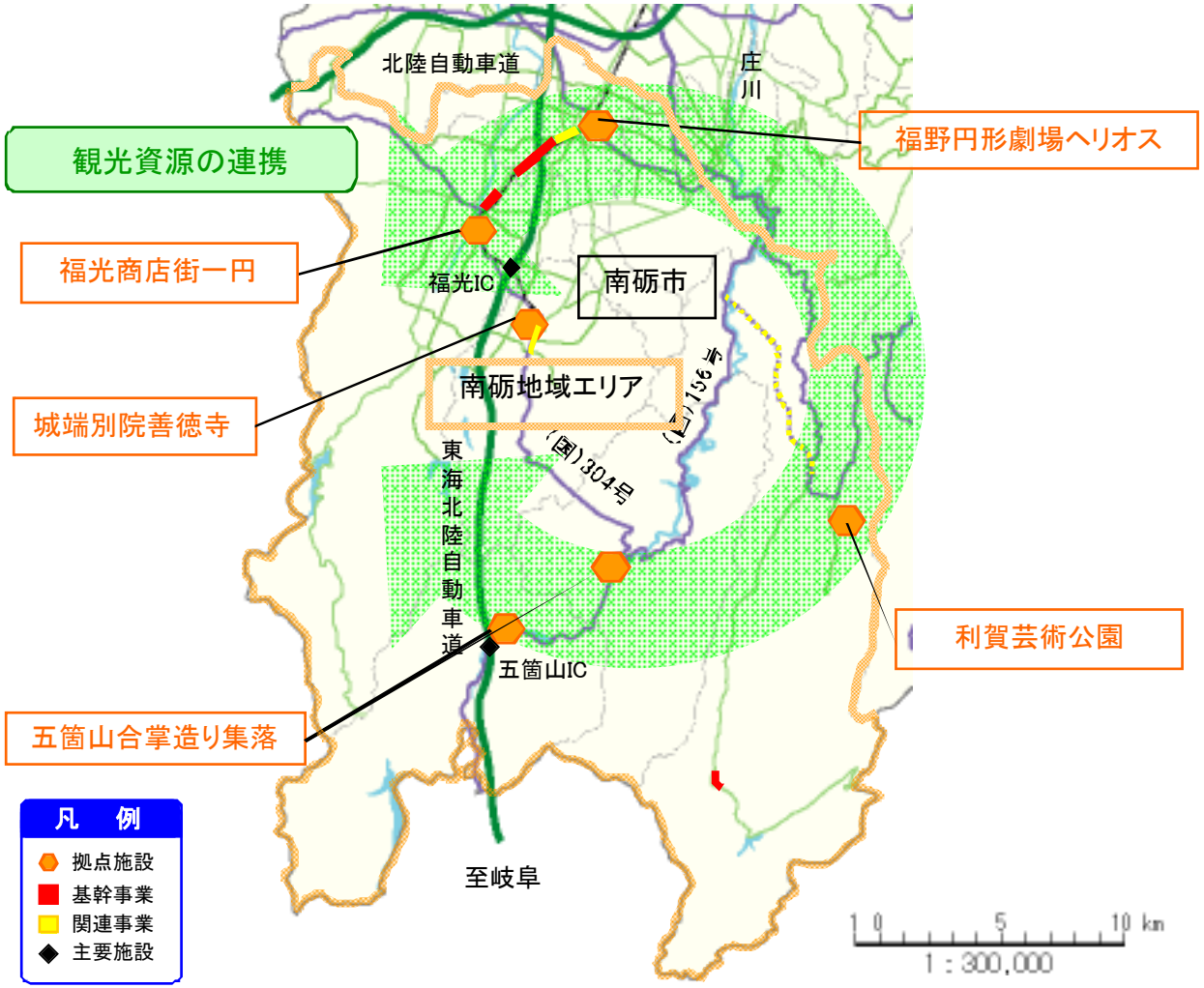
道路、まちづくりシンポジウム

南砺地域広域活性化計画の概要

富山県

計画のポイント

・東海北陸自動車道等の整備充実に伴い、飛騨・東海地方などとの広域交流の拡大が期待される南砺地域において、世界文化遺産「五箇山合掌造り集落」をはじめとする豊かな歴史・文化を活かした観光資源を連携させて広域観光の活性化を図る。
・そのため、東海北陸自動車道のIC等から観光資源へのアクセス道路や観光資源を相互に連絡する道路の整備を行う。



計画期間 平成１９年度～平成23年度

1．計画の目標

南砺地域の美しい景観、豊かな歴史・文化を活かした魅力ある観光資源に多くの観光客が訪ねてくること。

2．目標を定量化する主な指標

観光入込客数（万人）：
約１１３（H１７年度）→約１２５（H２３年度）

3．主な事業

道路

観光”しずおか”地域広域活性化計画の概要

静岡県

計画のポイント

・「観光“しずおか”地域」は伊豆半島、富士山周辺、日本平、浜名湖など多彩な観光地を有する我が国有数の観光地域であるが、慢性的な渋滞によるイメージ低下などにより、近年観光宿泊客数が大きく減少している。
・そのため、空港、新幹線主要駅、ICなどから観光地への陸・海の円滑な交通を確保するとともに、外国人旅行者への観光案内、標識の多言語化等を進めることにより、広域観光の活性化を図る。

計画期間 平成１９年度～平成23年度

１．計画の目標

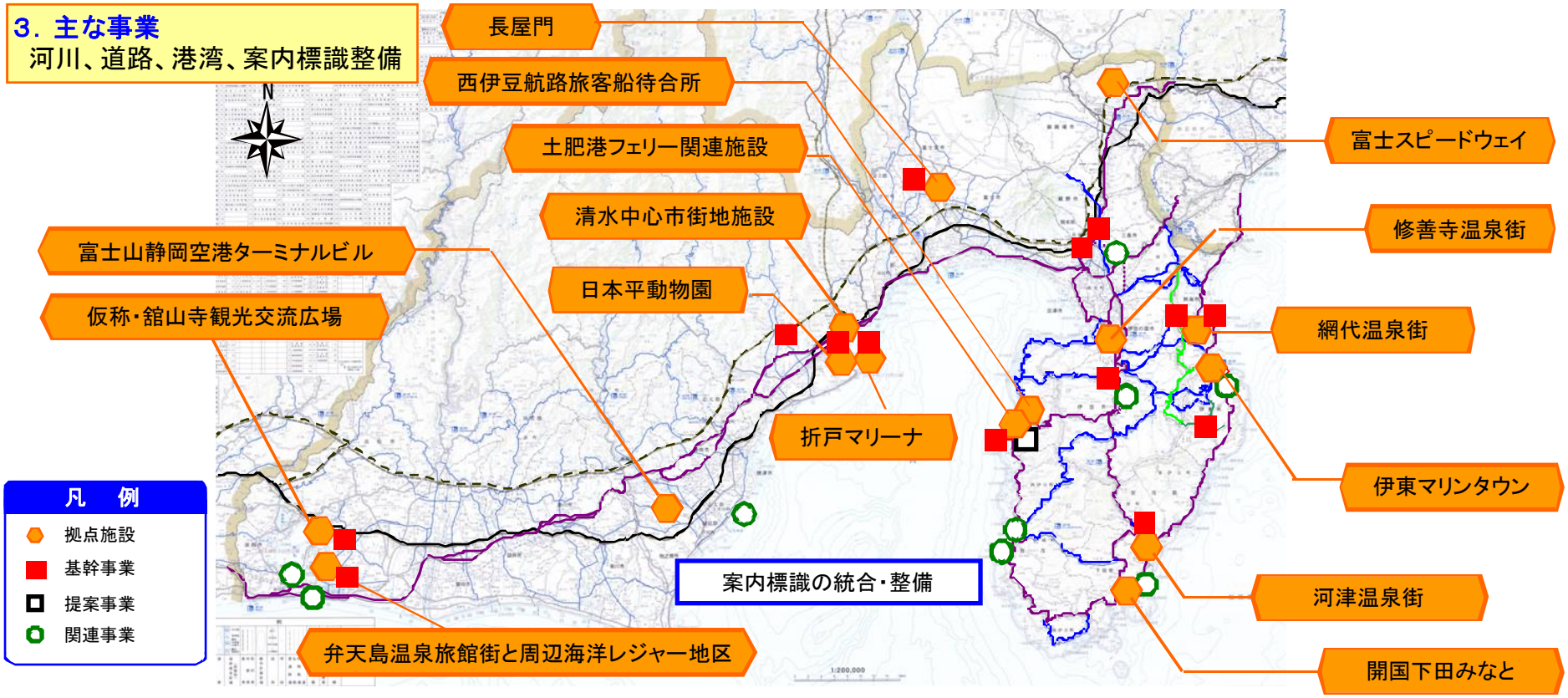
国内外からの観光交流が持続的に拡大する魅力ある地域を創造する。

２．目標を定量化する指標

観光交流客数（千人）：132，900（17年度）→140，000（22年度）
再び訪れたいと強く感じる旅行者の割合（%）：38（17年度）→50（22年度）
海外から静岡県への訪問客数（万人）：17（15年度）→50（22年度）

３．主な事業

河川、道路、港湾、案内標識整備



富士山静岡空港周辺地域広域活性化計画の概要

静岡県

計画のポイント

・富士山静岡空港の開港を契機として、静岡県内を生産・消費地とする外貿貨物の約4割が県外の港湾・空港を利用している状態を改善し、地域に立地する産業の物流コストの低減と新規産業の集積を図る。
・そのため、富士山静岡空港、清水港、御前崎港、新東名高速道路ICの相互アクセス強化のための道路整備等を行う。

計画期間 平成19年度～平成23年度

1．計画の目標

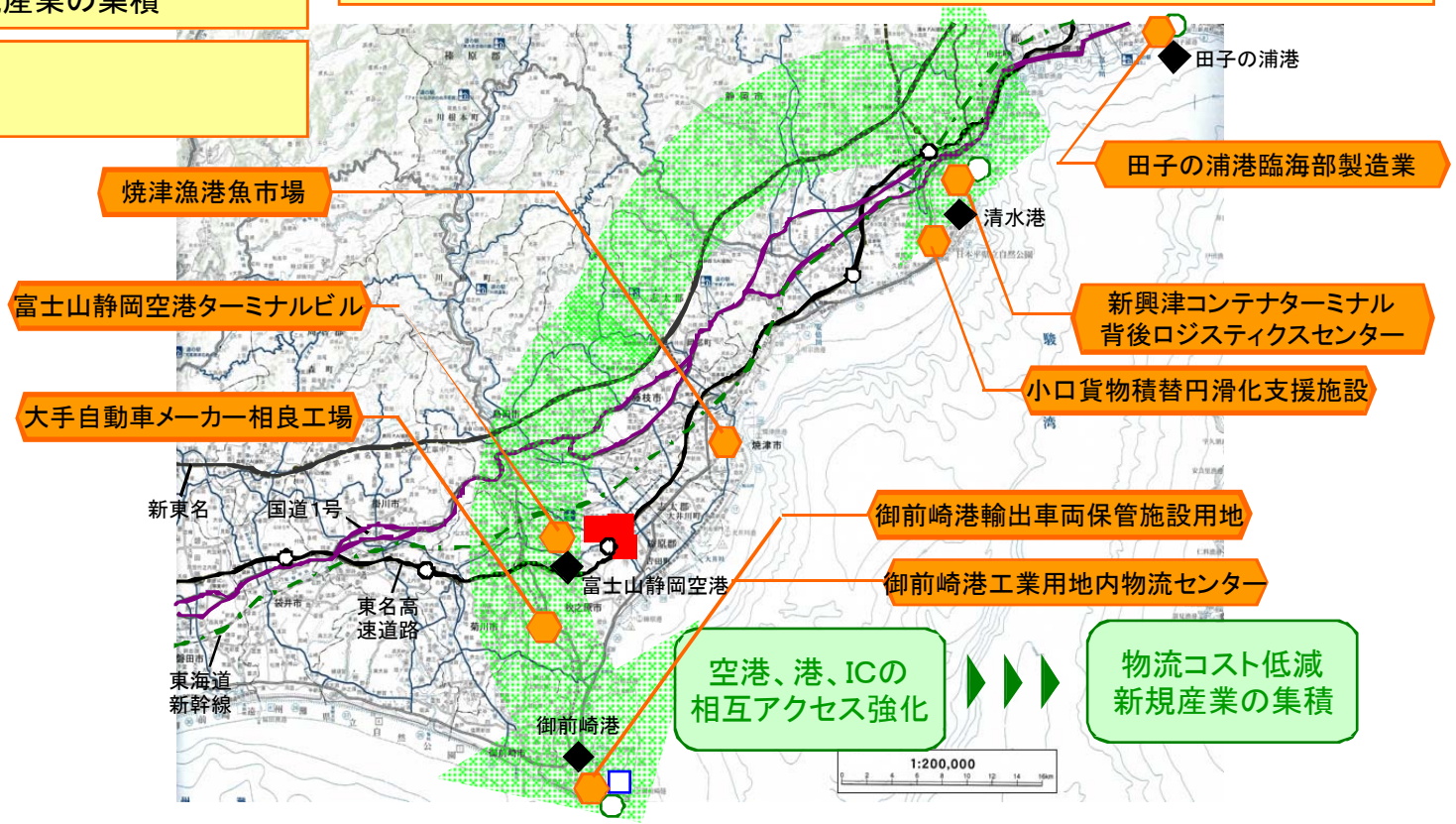
陸・海・空の複合的な交通ネットワークの形成による地域産業の活性化や新規産業の集積

2．目標を定量化する指標

製造業の県内総生産額（億円）：60，565（15年度）→63，636（22年度）
製造品出荷額（全国順位）：全国3位（17年度）→全国3位以内（23年度）
県内港湾外国貿易取扱量（万TEU）：43．2（17年度）→66．0（22年度）

3．主な事業

道路、港湾



凡　例

- 拠点施設
- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業
- 主要施設

N

東三河地域広域活性化計画の概要

愛知県

計画のポイント

・東三河地域には、我が国最大の自動車貿易港（金額ベース）である三河港が立地しているが、高速道路網へのアクセスに比較的長時間を要している。
・そのため、高速道路網へのアクセス強化のための道路整備等を行うことにより、物流の円滑化と地域産業の育成を図る。

計画期間 平成１９年度～平成23年度

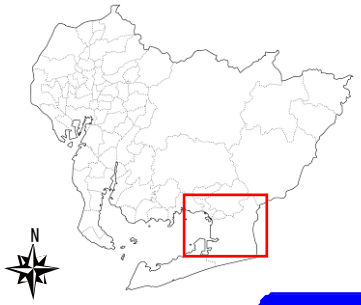
1．計画の目標
広域連携を基軸とした産業集積強化及び国際・地域競争力向上による自立した生活圏の維持・発展

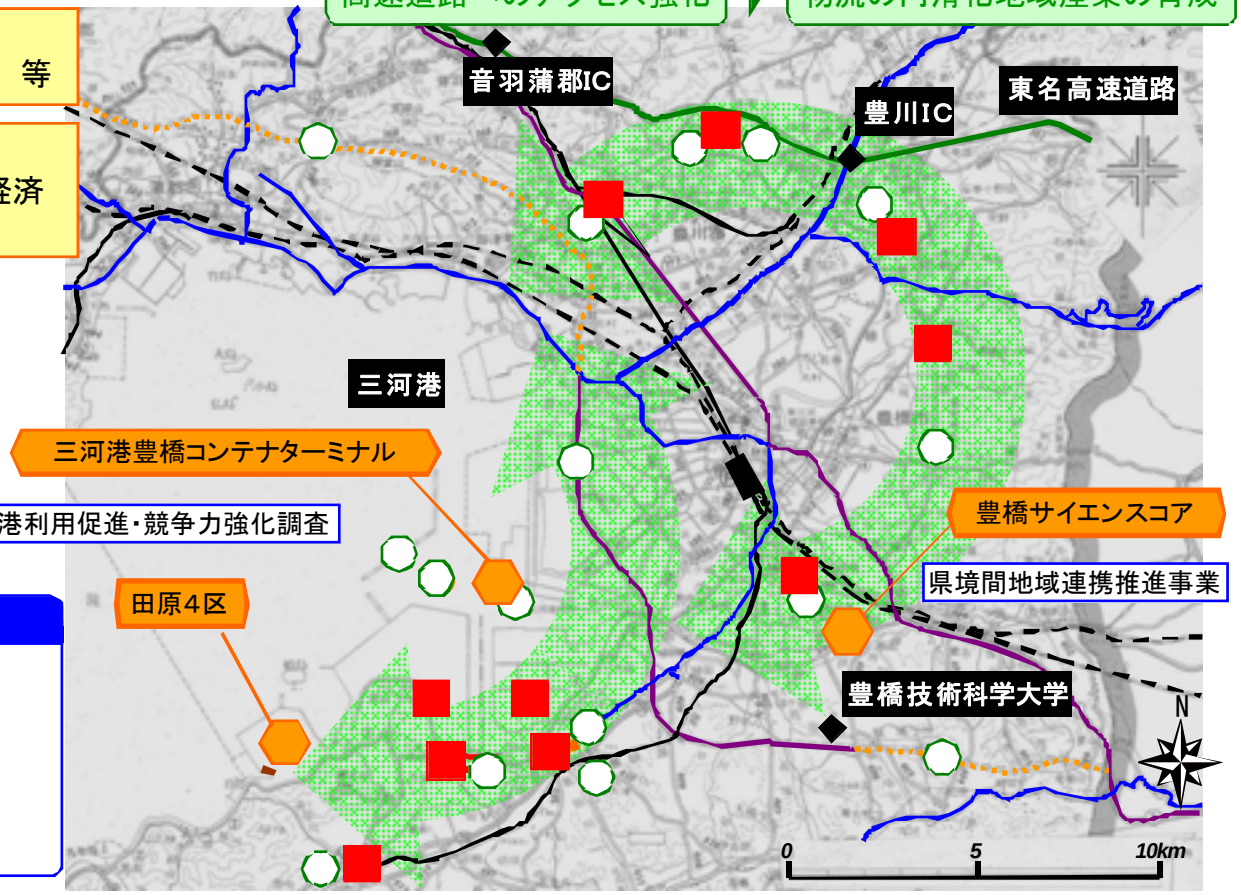
2．目標を定量化する指標
製造品出荷額等（億円）：48，274（H17年）→54，000（H23年）
港湾取扱貨物量（万トン）：2，524（H17年）→2，900（H23年）

3．主な事業
道路　三河港利用促進・競争力強化調査　等

4．その他
企業立地促進法基本計画（東三河地域）の経済産業大臣同意(H20.2.1)

高速道路へのアクセス強化 ▶ 物流の円滑化地域産業の育成





凡　例
- 拠点施設
- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業
- 主要施設

三重県北中部地域広域活性化計画の概要

三重県

計画のポイント

・三重県北中部地域においては、競争力のある高度部材産業及びその関連業種の集積を目的としている三泗地域（四日市市、菰野町、朝日町、川越町）地域産業活性化計画（経済産業大臣同意）の集積区域を拠点として、近接する加工組立産業などの集積地との交流・連携により産業の活性化を図る。
・そのため、計画区域内の産業集積地と高速道路ICや幹線国道との間のアクセス強化のための道路事業と産業集積地相互間の交流・連携を図るための事業等を行う。

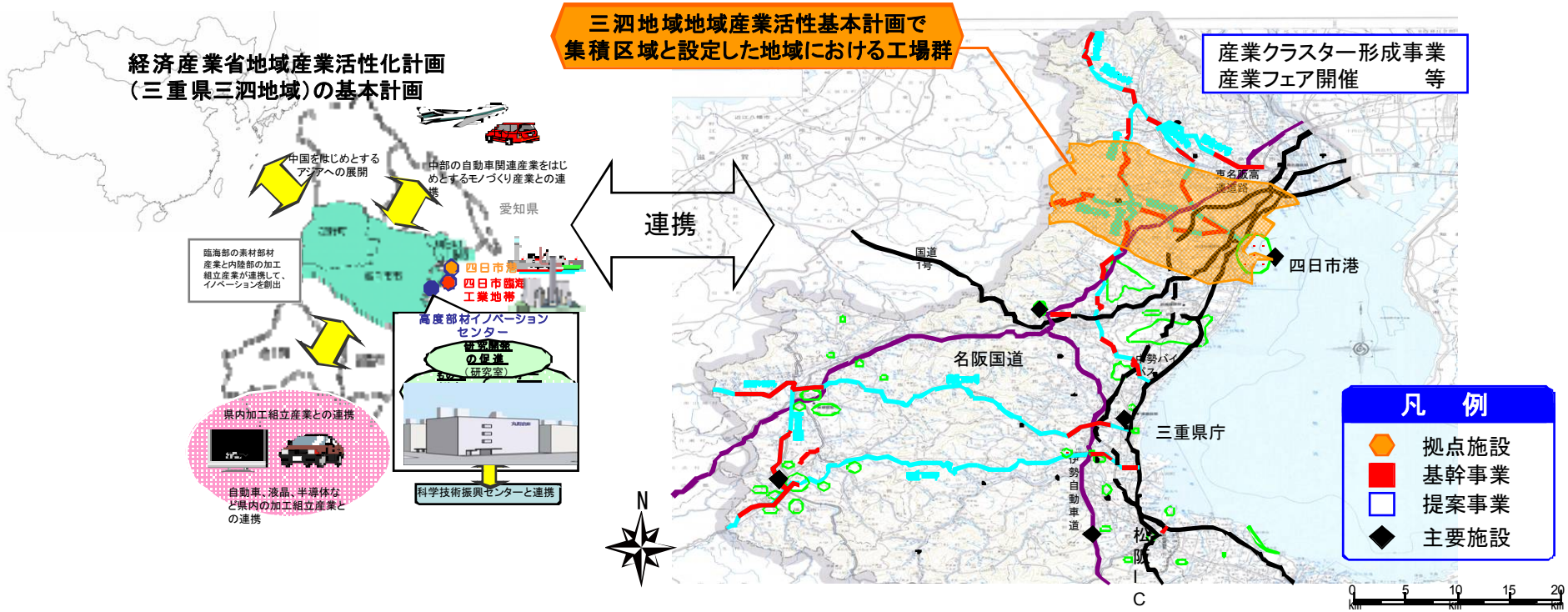
計画期間
平成１９年度
～
平成２３年度

１．計画の目標
三重県北中部地域において、高速道路、自動車専用道路や幹線国道へのアクセス強化を中心に物流の効率化を図り、地域の産業集積地間の交流・連携をすすめて、産業の活性化を促す。

２．目標を定量化する指標
三重県三泗地域における集積業種全体の付加価値額（億円）：
４，４８７（H18年度）→６，０００（H23年度）

３．主な事業 道路、産業集積促進事業

４．その他 地域産業活性化計画の経済産業大臣同意（H19．７）



三重県中南部地域広域活性化計画の概要

三重県

計画のポイント

・三重県中南部地域において、宿泊施設の集積や交流施設等を拠点にして、観光情報発信・誘客、観光旅客に対する観光案内、宿泊などの提供や自然、文化等に関する体験の機会の提供などを行うことにより広域観光の活性化を図る。
・そのため、周遊性、滞在性の増進と美しい景観の保全を目的とする道路事業、ソフト事業等を行う。

計画期間
平成１９年度
～
平成２３年度

１．計画の目標

周遊性、滞留性を向上させることにより、三重県中南部全体の広域的な観光交流の活性化を促進し、自然、文化ストック等あらゆる資源を生かした地域づくりを進める。

２．目標を定量化する指標

伊勢志摩地域観光レクリエーション入込客数（万人）：919（H18年度）→965（H23年度）
東紀州地域観光レクリエーション入込客数（万人）　：143（H18年度）→157（H23年度）

３．主な事業

道路、観光情報発信・誘客、　サインの整備、
熊野古道観光推進事業

凡　例

- 拠点施設
- 基幹事業
- 基幹事業
- 提案事業

丹後・伊根地域広域活性化計画の概要

京都府

計画のポイント

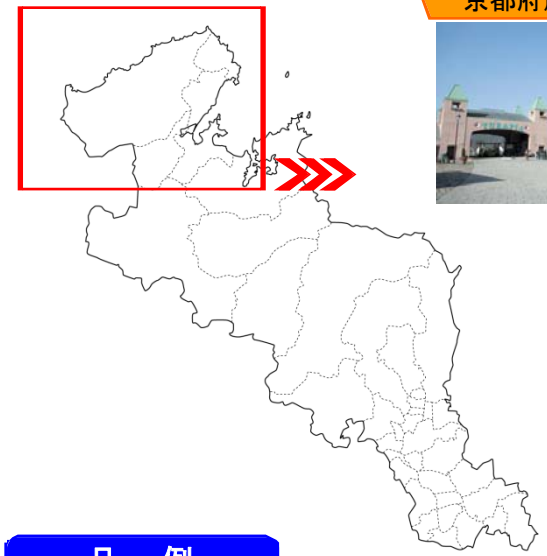
・丹後半島地域において、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された伊根の舟屋や農業公園丹後あじわいの郷などの観光施設へのアクセス道路の整備を行うことにより、天橋立などの周辺の著名な観光地との連携強化を図り広域観光の活性化を図る。

計画期間 平成１９年度～平成23年度

１．計画の目標
天橋立などの周辺観光地との連携強化による観光地としての魅力向上、観光活性化

２．目標を定量化する主な指標
伊根町への観光入込客数（万人）：
23.8（H18年度）→ 25.0（H23年度）

３．主な事業 道路、観光PR活動など



凡　例

- 拠点施設
- 基幹事業
- 関連事業
- 提案事業

関西文化学術研究都市地域広域活性化計画の概要

京都府

計画のポイント

・国家的な規模で行われている関西文化学術研究都市の研究活動の活性化を図るために、周辺高規格幹線道路・鉄道駅とのアクセス及び学研都市内クラスター間の円滑な移動を確保する必要がある。
・そのため、幅員狭小で大型車の通行が困難な道路の改良を行う。

計画期間 平成１９年度～平成22年度

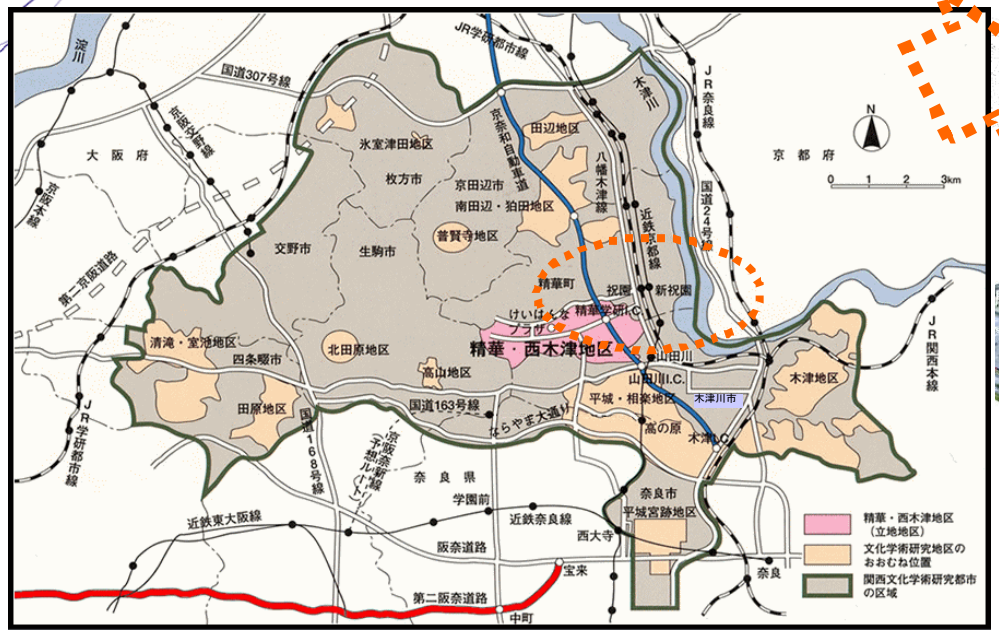
1．計画の目標

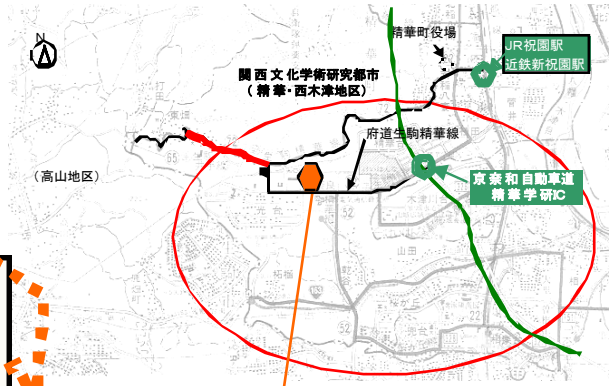
周辺高規格幹線道路・鉄道駅へのアクセス及び学研都市内クラスター間の連携強化による学研都市精華・西木津地区の立地施設の研究開発活動活性化

2．目標を定量化する主な指標

地区内人口（万人）：1．93（H18年度）→ 2．40（H22年度）

3．主な事業 道路





けいはんなプラザ

凡　例

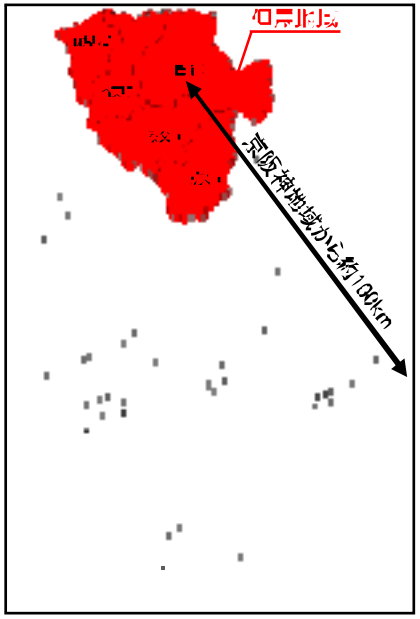
- 拠点施設
- 基幹事業
- 関連事業
- 主要施設

但馬地域広域活性化計画の概要

兵庫県

計画のポイント

・但馬地域では、コウノトリの野生復帰事業をシンボルとして、京阪神地域からの近接性と環境優先型の地域づくりを活かした広域の活性化を図る。
・そのため、地域の骨格を成す広域幹線道路やコウノトリ但馬空港から各拠点施設への道路網及び道路景観整備、河川環境整備などを行う。



計画期間　平成19年度～平成23年度

1．計画の目標

自然と共生する「新しいふるさと」づくりによる地域の魅力向上や観光・交流拠点の連携強化による観光活性化を図る。

2．目標を定量化する主な指標

観光入込客数（万人）：
996（H17年度）→ 1,250（H23年度）

3．主な事業

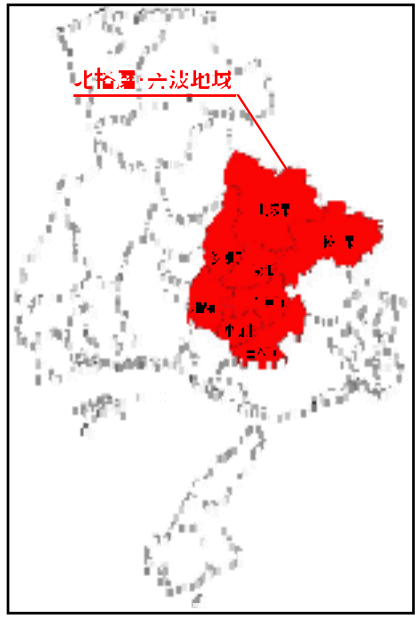
河川、道路、美しい県土づくり推進事業、交流活性化推進事業

北播磨・丹波地域広域活性化計画の概要

兵庫県

計画のポイント

・北播磨・丹波地域では、京阪神地域からの近接性を活かした都市と農山村の交流に関する各種取り組みを支援することにより、地域の活性化を図る。
・そのため、アクセスを強化する道路整備と併せて道路景観整備などを行う。



計画期間　平成19年度～平成23年度

1．計画の目標

北播磨・丹波地域における都市と農山村の交流に関する各種取り組みを支援し、地域のグリーンツーリズムの活性化を図る。

2．目標を定量化する主な指標

交流体験観光入込み客数（万人）：
299（H17年度）→ 350（H23年度）

3．主な事業

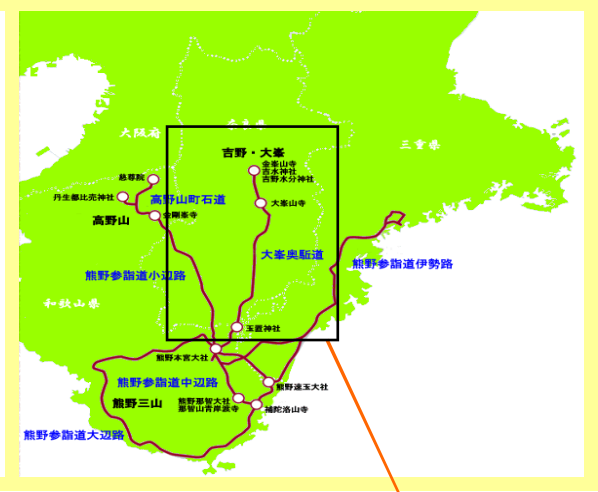
道路、都市・農山村交流推進事業

世界遺産及び世界遺産候補を含む地域広域活性化計画の概要

奈良県

計画のポイント

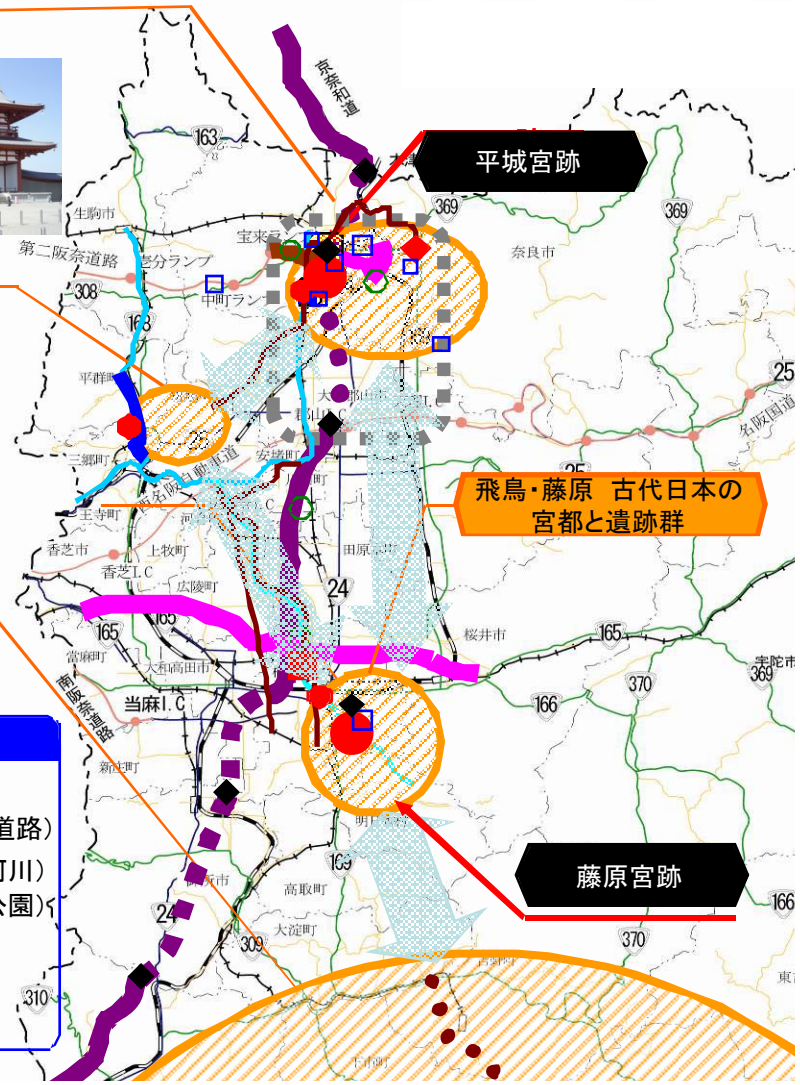
・平成22年度に平城遷都1300年を迎えることを契機として、平城宮跡等の世界遺産及び世界遺産候補を拠点とした広域的な観光交流の活性化を図る。
・そのため、各世界遺産間の移動を円滑にするためのアクセス道路の整備、公園整備等を行う。



古都奈良の文化財

法隆寺地域の仏教建造物

紀伊山地の霊場と参詣道



計画期間 平成１９年度～平成23年度

１．計画の目標

大目標：来訪者が、歴史的資産に恵まれた奈良の魅力を発見し、ゆっくりと、じっくりと楽しんでもらえるような観光施策を推進し、賑わう「都」を造る。

２．目標を定量化する主な指標

県内宿泊者数（万人）：323（H17年度）→ 500（H23年度）
外国人来訪者数（万人）：33（H17年度）→ 100（H23年度）

３．主な事業

公園、河川、道路、自律移動支援プロジェクト、
案内標識整備

高野山、熊野三山、熊野古道地域広域活性化計画の概要

和歌山県

計画のポイント

・世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の魅力を効果的に発信することにより、広域観光の活性化を図り、観光客と地域住民の協働による景観と環境に配慮した地域づくりを進める。
・そのため、世界遺産およびその周辺地域への安全で景観に配慮したアクセスを確保するための道路整備や観光情報提供の充実を行う。

計画期間 平成１９年度～平成23年度

１．計画の目標

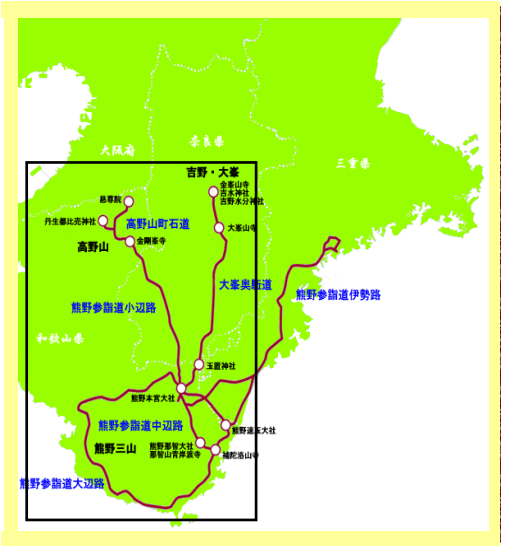
世界遺産登録年の平成16年3,089万人（過去最高）の観光客の確保

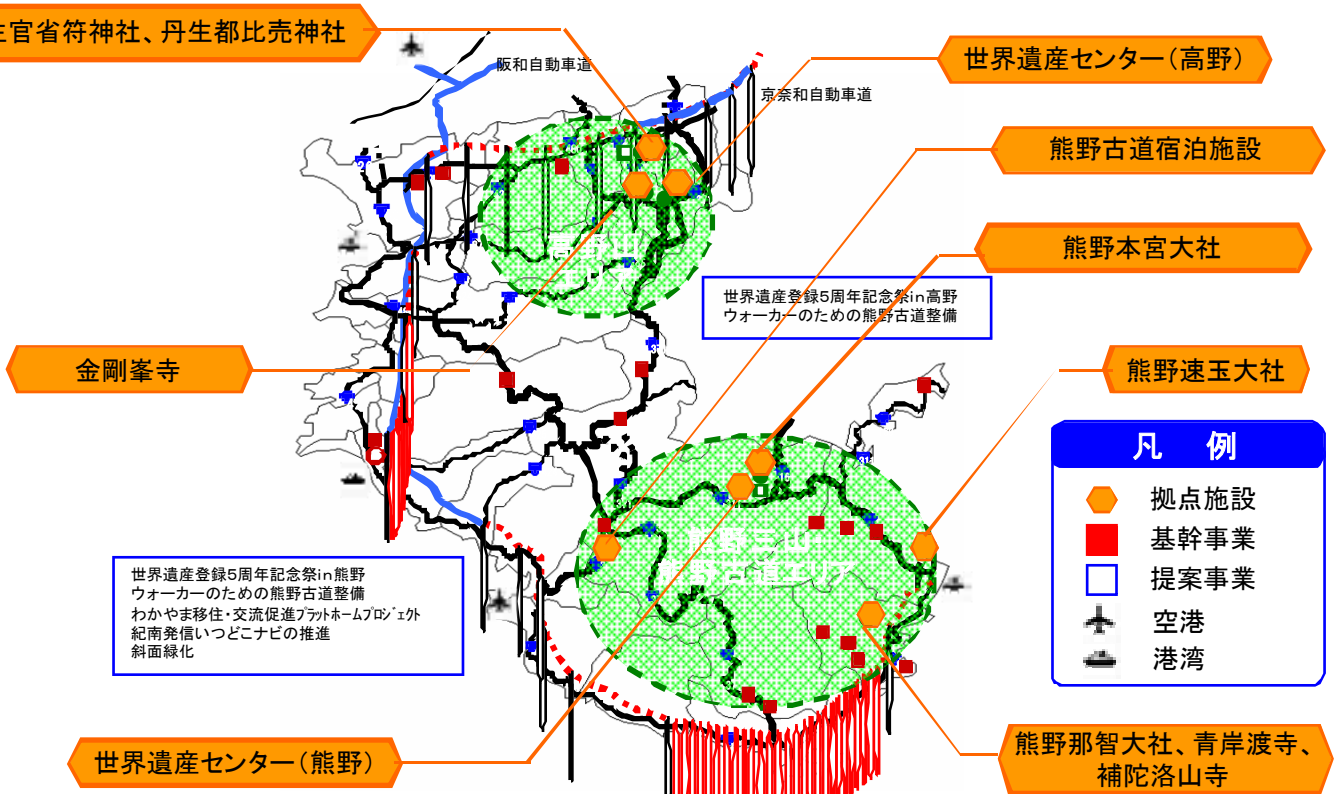
２．目標を定量化する主な指標

和歌山県への観光入込数（万人）：
3,064（H18年）→ 3,089（H23年）

３．主な事業

道路、観光情報提供、社会実験、世界遺産登録5周年事業





和歌山下津港地域広域活性化計画の概要

和歌山県

計画のポイント

・和歌山下津港地域は全国レベルのヨット競技会が開催されるなど海洋性レクリエーションの拠点となっているため、その機能を強化することにより、スポーツ振興と広域的な競技者及び観光客の来訪の増加を図る。
・そのため、水域環境の適正化と大規模な競技会の開催が可能な施設整備等を行う。

計画期間 平成１９年度～平成23年度

１．計画の目標

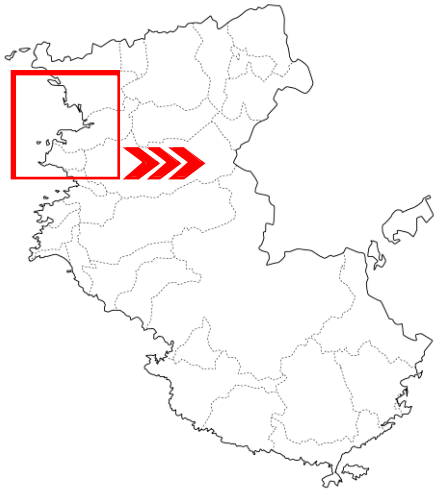
当該地域への観光客総数を６５０万人以上に増加させるとともに、水域環境の適正化を図る。

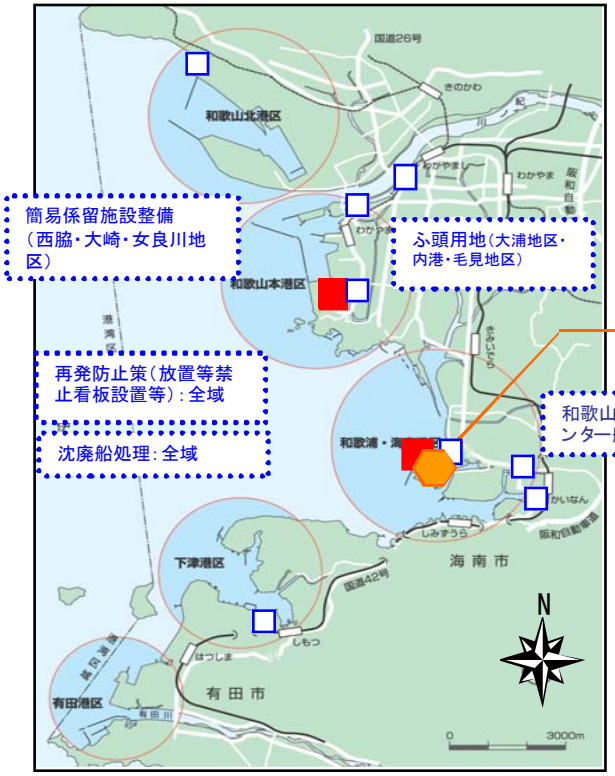
２．目標を定量化する主な指標

当該地域への観光入込客数（万人）：　620（H18年）→　650（H23年）
当該地域のヨット競技合宿者数（人）：1，610（H18年）→ 17，500（H23年）

３．主な事業

港湾、水域環境適正化、セーリングセンター機能増強





和歌山マリーナ

凡　例

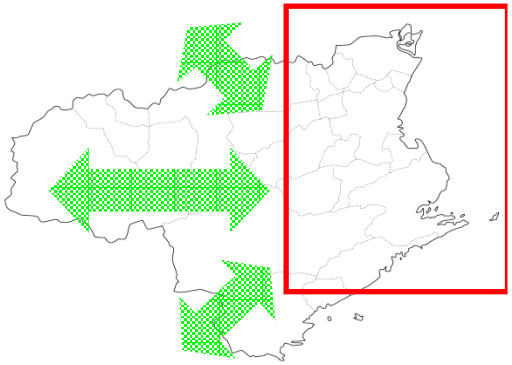
- 拠点施設
- 基幹事業
- 提案事業

徳島県東部地域広域活性化計画（スポーツ王国づくり）の概要

徳島県

計画のポイント

・四国アイランドリーグの開幕など、広域的な集客力のあるスポーツイベントの開催が増加していることを契機として、県民の競技力の強化を進めるとともに、地域にふさわしいスポーツ拠点づくりや県民が身近にスポーツを楽しめる環境づくりを推進し、スポーツによる広域的地域活性化を図る。



スポーツによる
広域活性化

鳴門・大塚スポーツパーク

競技力向上スポーツ
指定校強化事業

とくしまマラソン支援事業

エンジョイ☆プロスポーツ事業

スポーツ施設ユニバーサル
デザイン推進事業

蔵本公園

徳島県南部健康運動公園

凡　例

- 拠点施設
- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業

計画期間 平成１９年度～平成23年度

１．計画の目標

スポーツチーム活用、スポーツイベントなどを通じ、にぎわいの創設や競技力の強化を進めるとともに地域にふさわしいスポーツ拠点づくりや県民が身近にスポーツを楽しめる環境づくりを推進し、スポーツによる地域活性化を図る。

２．目標を定量化する主な指標

スポーツ大会、合宿の誘致件数（件）：
23（H18年度）→ 32（H23年度）

３．主な事業

道路、港湾、
スポーツ施設ユニバーサルデザイン化

徳島県西部地域広域活性化計画（剣山周辺観光活性化）の概要

徳島県

計画のポイント

・剣山を核とする徳島県西部地域は、美しい自然と特色ある文化伝統が残り、豊富な観光資源に恵まれているが、アクセス道路の改良が進んでおらず、観光地としての機能が十分に発揮されていない。
・そのため、観光地への道路の整備等を行うことにより、周遊観光による広域観光の活性化を図る。

計画期間 平成１９年度～平成23年度

１．計画の目標

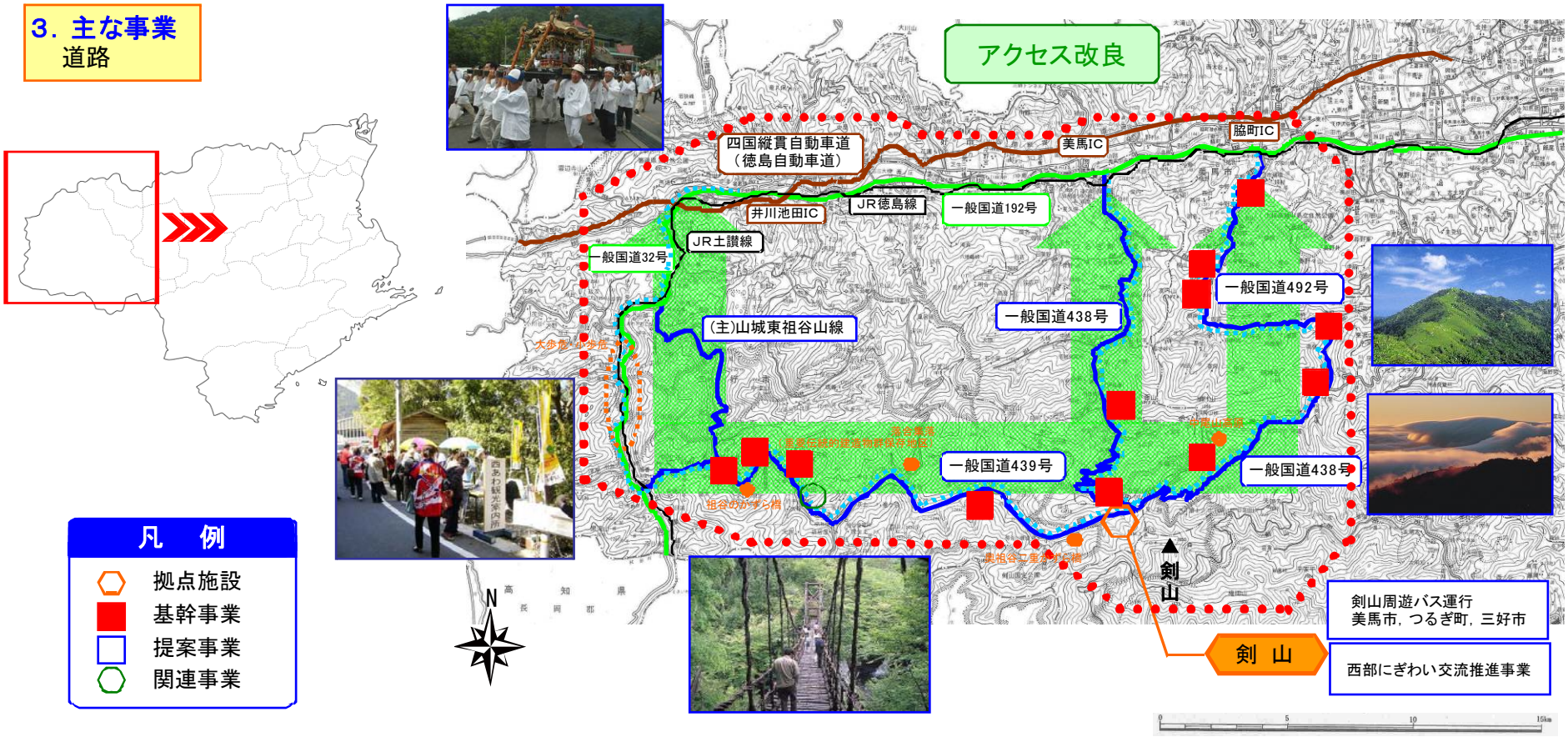
剣山を観光の核として位置付け，その周辺の観光資源の有効活用やイベント開催等により広域観光の活性化を図る。

２．目標を定量化する指標

剣山ブロックへの観光入込客数（万人）：
257（H17年度）→ 310（H23年度）

３．主な事業

道路



佐賀県広域活性化計画（工業・生産機能強化）の概要

佐賀県

計画のポイント

・佐賀県内東部・中部・西部地域の工業団地に立地する企業が行う全国的な規模の工業製品の製造等に関する事業活動を促進するため、拠点施設（工業団地群）から高速道路IC等へのアクセス向上のための道路整備を行う。

計画期間 平成１９年度～平成23年度

１．計画の目標

県内工業団地から、港湾（伊万里・博多）、空港（佐賀、福岡）の主要施設をはじめ、福岡都市圏、九州各地につながる高速自動車道や主要幹線道路へのアクセス道路等の整備を促進し、相当数の企業が行う製造に関する事業活動の円滑化により産業の活性化を図る。

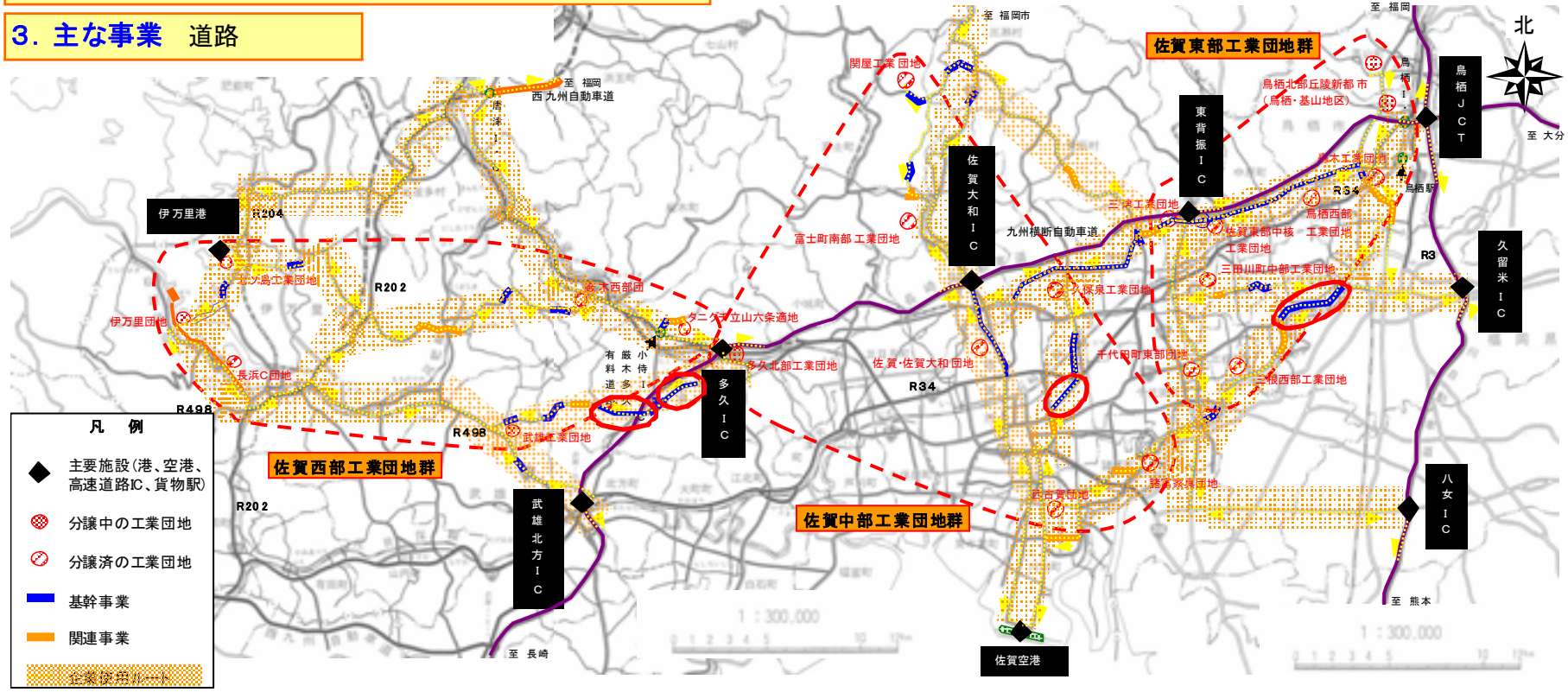
２．目標を定量化する主な指標

製造品出荷額等（億円）：17，096（H18年末）→17，951（H23年末）
企業進出（新規立地・増設）件数（件）： 0（H19年度）→75（H23年度）

３．主な事業　道路

４．その他

企業立地促進法基本計画の経済産業大臣同意（H19.10、H19.12、H20.2）



島原半島地域広域活性化計画の概要

長崎県

計画のポイント

・島原半島地域の温泉、自然、歴史、食などの豊かな観光資源を活かした、広域観光の活性化を図る。そのため、鉄道駅や高速道路ICからのアクセス改善のための道路整備、フェリー接岸施設や新鮮な水産物を供給するための港湾整備等を行う。

計画期間 平成１９年度～平成23年度

１．計画の目標

地域資源を活かした魅力ある観光地の再生を図り、さらなる観光拠点とし、県内外から観光客を呼び込む。

２．目標を定量化する指標

観光客数（暦年）（万人）
　567（平成18年）→ 620（平成23年）
所要時間短縮率（%）
　0（平成18年度）→13（平成23年度）
フェリー乗客数（千人）
　2272（平成18年度）→2279（平成23年度）

３．主な事業

河川、道路、港湾

凡　例

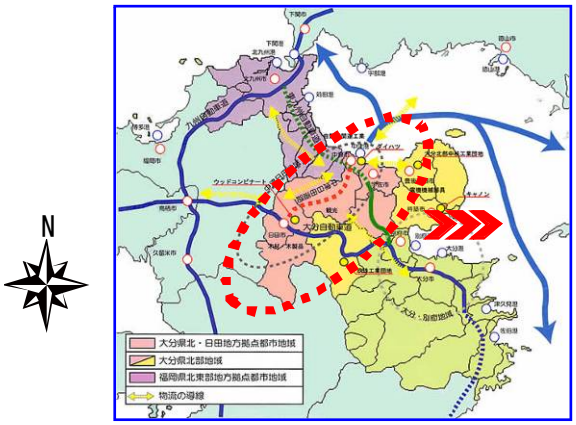
- 拠点施設
- 基幹事業（道路）
- 基幹事業（港湾）
- 基幹事業（河川）
- 関連事業

県北・日田地域広域活性化計画の概要

大分県

計画のポイント

・県北・日田地域の物流港である中津港の背後地を拠点に、自動車関連産業を核とした企業活動を支え、通勤の利便性など生活環境を改善することにより、地場産業と進出企業の共生・発展による雇用創出と居住者の増加を図る。そのため、必要な道路整備等を行う。



計画期間 平成１９年度～平成23年度

1．計画の目標

地場企業の自動車関連産業参入促進、移住・定住の促進による雇用者の確保により、地場産業と進出企業の共生・発展を図り、自立・活性化した北部九州の中核地域を形成する。

2．目標を定量化する主な指標

自動車関連産業の付加価値額（億円）：
524.8（H17年度）→ 562.9（H24年度）
各市の将来目標人口（人）：
244,456（H17年度）→ 233,231（H27年度）

3．主な事業　道路

4．その他

企業立地促進法基本計画の経済産業大臣同意（H19.10）

鹿児島県地域広域活性化計画（九州新幹線全線開業に向けた計画）の概要

鹿児島県

計画のポイント

計画期間 平成１９年度～平成23年度

・九州新幹線（鹿児島ルート）全線開業の効果を鹿児島県下全域に波及させるため、鹿児島中央駅を中心とする主要観光ルートのネットワークや観光客の受入態勢等を重点的に充実・強化し、観光客等交流人口の増加を目指す。そのため、観光地等へのアクセス道路や案内標識、河川の整備、観光客誘致に向けた情報発信など、魅力ある観光地づくりに向けて集中的に取り組む。

1．計画の目標
鹿児島中央駅の拠点性向上及び観光客等交流人口の増加

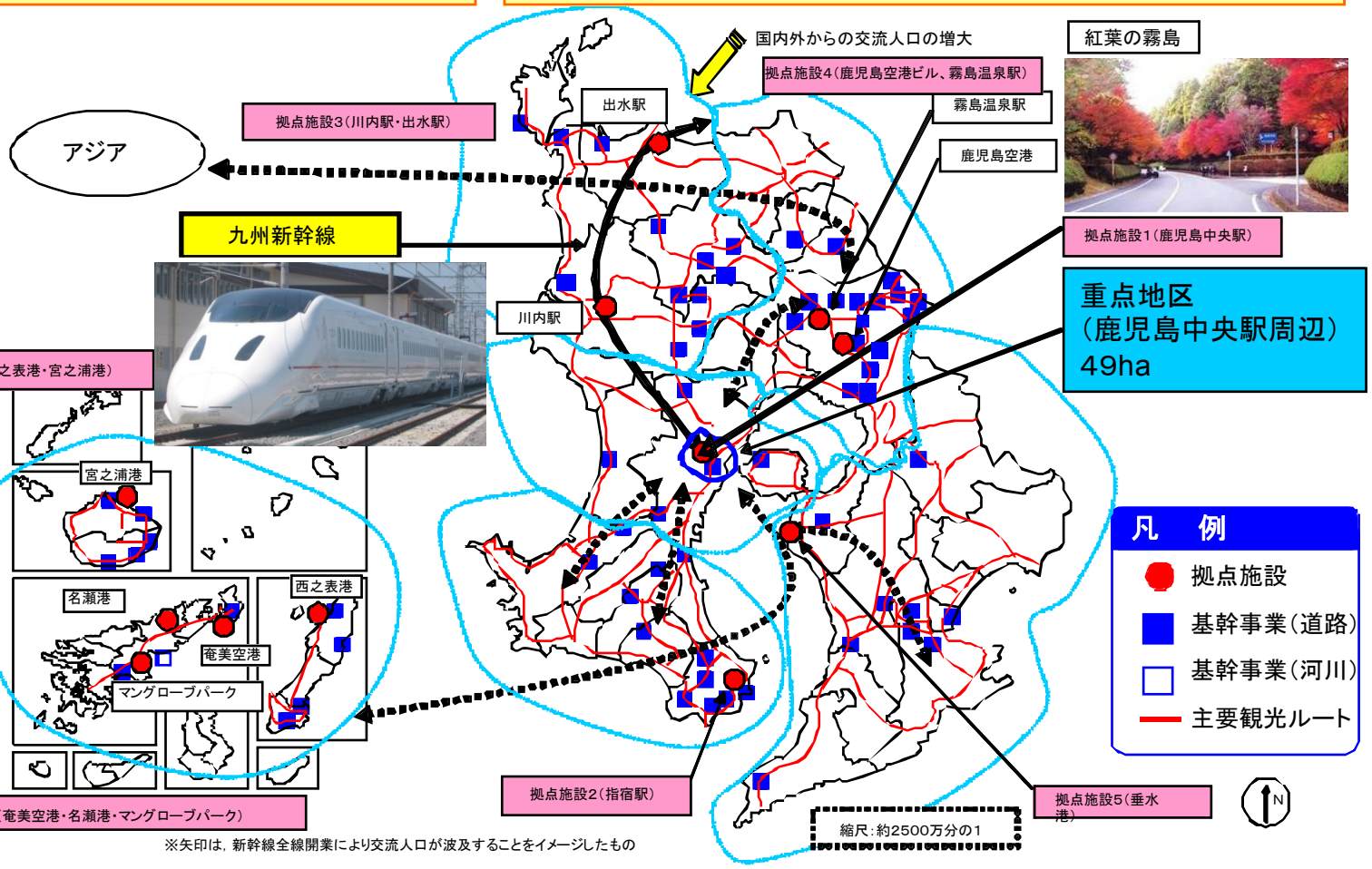
2．目標を定量化する主な指標
観光客数：4，780万人（H18年）→5，500万人（H23年）

3．主な事業　道路、河川、案内板整備、観光PR活動など

4．その他　農山漁村活性化計画との連携

屋久島　縄文杉

奄美の海



※矢印は，新幹線全線開業により交流人口が波及することをイメージしたもの